HITACHI
Inspire the Next

Prius
Deck 770C / 570C(P)

応用操作 1
消費電力を節約する 2
パソコンを拡張する 3
セットアップする 4
日常のお手入れ 5
トラブルと思ったら 6
技術情報 7
付録

パソコン応用

マニュアルはよく読み、保管してください。

■製品を使用する前に、安全上の説明をよく読み、十分理解してください。
■このマニュアルは、いつでも参照できるよう、手近な所に保管してください。

FLORA

重要なお知らせ

- 本書の内容の一部または全部を、無断で転載あるいは引用することを禁止します。
- 本書の内容については将来予告なしに変更することがあります。
- 本書の記述内容について万一ご不審な点や誤りなど、お気付きのことがありましたら、お買い求め先へご一報くださいますようお願いいたします。
- 本製品を運用した結果については前項にかかわらず責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

パソコンの信頼性について

ご購入いただきましたパソコンは、家庭用、あるいは、一般事務用を意図して設計・製作されています。生命、財産に著しく影響のある高信頼性を要求される用途への使用は避けてください。このような使用に対する万一の事故に対し、弊社は一切責任を負いません。
高信頼性を必要とする場合には、別システムが必要です。弊社営業部門にご相談ください。

家庭用一般事務用パソコンが不適当な、高信頼性を必要とする用途例
・化学プラント制御、医療機器制御、緊急連絡制御など

規制、対策などについて

- 電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会 (VCCI) の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

- 漏洩電流自主規制について

この装置は、社団法人 電子情報技術産業協会のパソコン業界基準 (PC-11-1988) に適合しています。

- 電源の瞬時電圧低下対策について

落雷等による電源の瞬時電圧低下に対して不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置等を使用されることをお勧めします (社団法人　電子情報技術産業協会のパーソナルコンピューターの瞬時電圧低下対策ガイドラインに基づく表示)。

- 高調波ガイドライン適合について

本装置は、経済産業省通知の家電･汎用品高調波抑制対策ガイドラインに適合しています。

- ENERGYSTAR® について

当社は国際エネルギースタープログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギースタープログラムの対象製品に関する基準を満たしていると判断します。
『国際エネルギースタープログラムは、コンピュータをはじめとしたオフィス機器の省エネルギー化推進のための国際的なプログラムです。このプログラムは、エネルギー消費を効率的に抑えるための機能を備えた製品の開発、普及の促進を目的としたもので、事業者の自主判断により参加することができる任意制度となっています。対象となる製品はコンピュータ、ディスプレイ、プリンタ、ファクシミリおよび複写機等のオフィス機器で、それぞれの基準ならびにマーク (ロゴ) は参加国間で統一されています。』

- 輸出規制について

本製品を輸出される場合には、外国為替及び外国貿易法の規制並びに米国輸出管理規制等外国の輸出関連法規をご確認の上、必要な手続きをお取りください。なお、ご不明な場合は、お問い合わせ先にお問い合わせください。
なお、この装置に付属する周辺機器やソフトウェアも同じ扱いになります。

- PC グリーンラベル制度について

本製品は JEITA「PC グリーンラベル制度」の審査基準（2001 年度）を満たしています。詳細は、Web サイト http://www.jeita.or.jp をご覧ください。

このマニュアルの使いかた

■ 1 章 応用操作
画面や音量の調整、ワンタッチキーの設定など、パソコンの応用操作について説明します。

■ 2 章 消費電力を節約する
パソコンの消費電力を節約するために必要な設定について説明します。

■ 3 章 パソコンを拡張する
パソコンに周辺機器を接続する方法を説明します。

■ 4 章 セットアップする
ご購入時にセットアップされていないアプリケーションのセットアップのしかたを説明します。

■ 5 章 日常のお手入れ
パソコンや周辺機器のお手入れについて説明します。

■ 6 章 トラブルと思ったら
パソコンの電源を入れたときにエラーメッセージが表示されたり、接続した周辺機器が正しく動作しないときは、この章をお読みください。

■ 7 章 技術情報
パソコンの仕様、有寿命部品やオプション情報について説明します。

■ 付録
用語の解説やさくいんを記載しています。

マニュアルの表記について

■ マークについて
マニュアルの中で使用している、マークの意味を説明します。

重要	重要事項や使用上の制限事項を示します。
ヒント	パソコンを活用するためのヒントやアドバイスです。
参照	参照先を示します。

もくじ

重要なお知らせ
パソコンの信頼性について
規制、対策などについて
このマニュアルの使いかた 1
マニュアルの表記について 1
もくじ 2

1 章 応用操作

ディスプレイを調整する 6
ディスプレイの表示を変える 6
音量を調整する 8
音量を調整する 8
音質を設定する（770C のみ）. 12
リモコンで音質を設定する 12
ワンタッチキーを設定する 13
メール着信ランプを使う 16
メール着信 /EPG ダウンロードの設定 (770C の場合) 16
メール着信ランプの設定 (570C の場合) 19

2 章 消費電力を節約する

節電機能とは 24
節電機能の種類 24
節電する 25
自動で節電する 25
すぐに節電する 27
節電状態から復帰する 29
節電機能を使わないようにするとき 30
節電機能を使わないようにするとき 30
節電機能を使わないようにするには 30

3 章 パソコンを拡張する

周辺機器接続時に必要な設定 32
周辺機器と必要なケーブル類 33
使用できる周辺機器 33
USB 機器を接続する. 34
接続方法 34
i.LINK 機器を接続する 37
接続方法 37
LAN を接続する. 39
接続方法 39
PC カードを使う 40
挿入手順 40
取り外し手順 41
ディスプレイを複数接続する 43
接続できる 2 台目のディスプレイについて 43

接続方法 43
同時表示にする 44
ヘッドホン、マイクを接続する 45
接続方法 45
マイクを使って録音する 45
ドルビーヘッドホンで聴く 47
光デジタルオーディオ機器を接続する 48
接続方法 48
パソコンカバーの取り外し / 取り付け 49
作業時の注意点 49
取り外し手順 50
取り付け手順 50
メモリーボードを取り付ける 51
メモリーボードとメモリーボードソケットの組み合わせかた 51
取り付け手順 52
取り外し手順 53
拡張ボードを取り付ける 54
取り付けられる拡張ボード 54
取り付け手順 54
その他の周辺機器を接続する 56

4 章 セットアップする

アプリケーションのセットアップ 58
セットアップの前に 58
アプリケーションを削除する 60
アプリケーションのセットアップ 61
各アプリケーションの制限や設定 66
ドライバー、ユーティリティーのセットアップ 70
セットアップ方法 70
Windows ファイルを追加セットアップする 76
パーティションの設定 77

5 章 日常のお手入れ

パソコンのお手入れ 84
パソコンのお手入れ 84
マウスのお手入れ 85
ディスクドライブのお手入れ 86
CD-R/RW ドライブのクリーニング 86
DVD-ROM ドライブのクリーニング 86
DVD-RAM/R ドライブのクリーニング 86

6 章 トラブルと思ったら

制限事項 88
パソコンおよび周辺機器を使用する環境について 88
パソコンおよび周辺機器の取り扱いについて 88
通信に関する制限 89
キーボードに関する制限 89
リモコンに関する制限（770C のみ） 89
HDD の容量表示について 90

7 章 技術情報

パソコン仕様一覧 92
ドライブの仕様 95
CD-R/RW ドライブの仕様 95
DVD-ROM ドライブの仕様 96
DVD-RAM/R ドライブの仕様 97
ドライブの使用について 98
メモリーボードの仕様 100
有寿命部品一覧 101
オプション情報 102

付録

用語集 104
さくいん 111

1章

応用操作

この章では、

パソコンの設定を工夫し、さらに使いやすくする方法について

説明します。

4 ディスプレイを調整する

ここでは、ディスプレイの表示の設定を変更する方法を説明します。

ディスプレイの表示を変える

ディスプレイの表示を細かく設定することで見やすく目の疲れにくい画面表示にできます。設定は、[画面のプロパティ] で行います。

[画面のプロパティ] の開き方

1 [スタート] ボタン － [コントロールパネル] をクリックする。

[コントロールパネル] が表示される。

2 [画面] アイコンをダブルクリックする。

[画面のプロパティ] が表示される。

ヒント

- **[コントロールパネル] に［画面］アイコンが表示されていないときは、［クラシック表示に切り替える］をクリックすると表示されます。**

画面の解像度、色、フォントサイズの設定

重要

- **設定はアプリケーションを終了させてから行ってください。実行中に行うと、正しく動作しないことがあります。**

1 [画面のプロパティ］の [設定］タブで、画面の解像度や色を設定する。フォントサイズについては、[デザイン] タブの [フォントサイズ] で設定する。次の表の組み合わせに従い、[適用] ボタン、[OK] ボタンをクリックする。

画面の領域	色 ＊2	フォントサイズ
800 × 600	中 (16 ビット)	標準＊1 大きいフォント 特大フォント
	最高（32 ビット)	
1024 × 768 ＊1	中（16 ビット)	
	最高（32 ビット) ＊1	

＊1：購入時のパソコンは、この標準値に設定されています。
＊2：中 (16 ビット) は 65536 色、最高 (32 ビット) は約 1677 万色です。ただし、ディスプレイによっては最高 (32 ビット) に設定しても 1677 万色以下になります。

ヒント

- **この設定は、ディスプレイ付属のマニュアルもご参照ください。**

2 以降、表示されるメッセージに従って操作する。

画面の表示が設定される。

重要

- **画面の表示で問題が発生した場合は、[画面のプロパティ] の [設定] タブで [詳細設定] ボタンをクリックして [トラブルシューティング] タブで [ハードウェア アクセラレータ] を左から 2 つ目の目盛りに設定してください。**
- **表示モードによってはディスプレイの表示領域の位置やサイズが異なります。ディスプレイ側で画面を調節してください。調節の方法については、ディスプレイ付属のマニュアルをご参照ください。**
- **アプリケーションによっては、スクロールしたりウィンドウの移行を行ったりしたときに表示の一部が欠けたり乱れたりすることがあります。この時は、ウィンドウをクリックするなどして、再表示してください。**
- **ディスプレイが接続されていなかったり、ディスプレイの電源が入っていない状態で、パソコンを立ち上げると、画面の領域が 640 × 480、表示色が中 (16 ビット）になる場合があります。ディスプレイを接続し、電源を入れたあと、設定し直してください。**

4 音量を調整する

ここでは、パソコンの音量を調整する方法を説明します。

ヒント

- **液晶ディスプレイ内蔵のスピーカーの調整方法は、液晶ディスプレイに同梱のマニュアルをご参照ください。外部スピーカーを接続している場合は、外部スピーカーのマニュアルもあわせてご参照ください。**

音量を調整する

Windows の [Volume Control] やリモコン、キーボードのキーを使うと、音量を調整できます。

重要

- **音量を上げすぎると、スピーカーからの音が音割れする場合があります。**

[Volume Control] で調整する

Windows の [Volume Control] を使うと、CD プレーヤーの音量や録音レベルも調整できます。

1 [スタート] ボタン－ [コントロールパネル] をクリックする。

[コントロールパネル] が開く。

2 [サウンドとオーディオデバイス] アイコンをダブルクリックする。

[サウンドとオーディオデバイス] の［音量］タブが開く。

ヒント

- **［コントロールパネル］に［サウンドとオーディオデバイス］アイコンが表示されていないときは、［クラシック表示に切り替える］をクリックすると表示されます。**

3 [デバイスの音量] の [詳細設定] ボタンをクリックする。

[Volume Control] が表示される。

4 音量やバランスを調整したい箇所のスライドバーをドラッグする。

ヒント

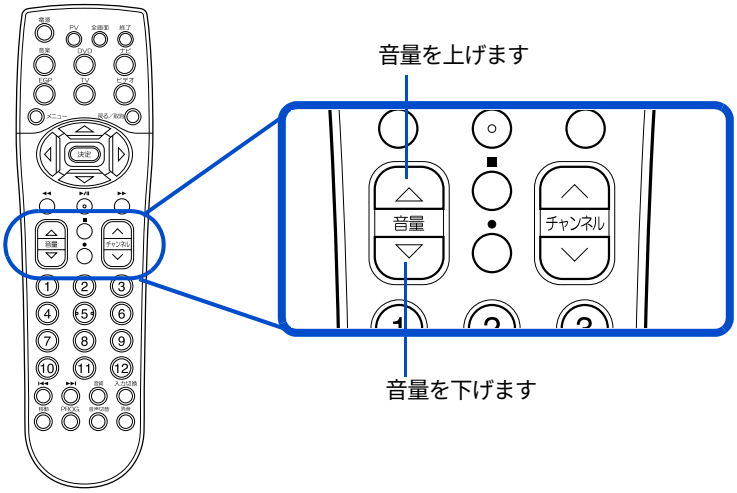
- **項目の意味は、次の通りです。**
  Volume Control　：全体的な音量を調整
  WAVE　：WAV ファイルなどの音量を調整
  CD Audio　：CD の音量を調整
  Line　：ライン入力端子から入力された音声の音量を調整
  Midi Out　：SW シンセサイザからの音量を調整

リモコンを使って調整する（770C のみ）

リモコンの音量ボタン（▲▼）を押して、適切な音量に調整できます。

ヒント

- **リモコンの音量ボタンは、Windows の［Volume Control］を調整しています。**



通知領域に［音量］アイコンを表示して調整する

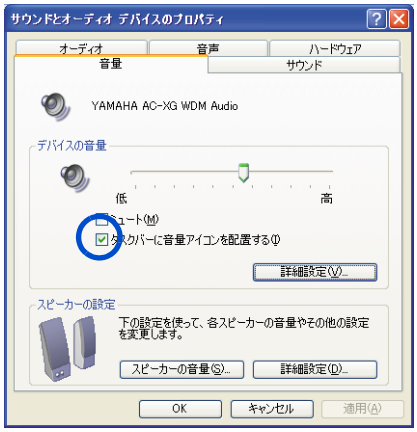
［音量］アイコンを画面右下の通知領域に表示し、音量を調整することもできます。

参照 **通知領域について→『パソコン入門』の「1. パソコンを始めよう」**

1 **［スタート］ボタン－［コントロールパネル］をクリックする。**
［コントロールパネル］が開く。

2 **［サウンドとオーディオデバイス］アイコンをダブルクリックする。**
［サウンドとオーディオデバイスのプロパティ］の［音量］タブが開く。

3 **[タスクバーに音量アイコンを配置する] にチェックマークを付け、[適用] ボタンをクリックする。**



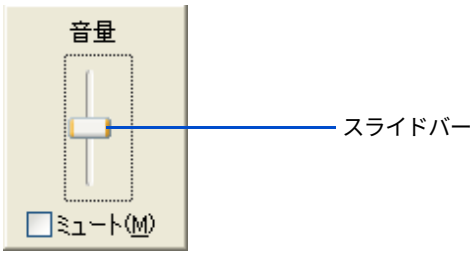
4 **[OK] ボタンをクリックする。**

■ [音量] アイコンで調整する

1 **通知領域の [音量] アイコン をクリックする。**

[音量] を調整するスライドバーが表示される。

2 **スライドバーを上下にドラッグして、音量を調整する。**

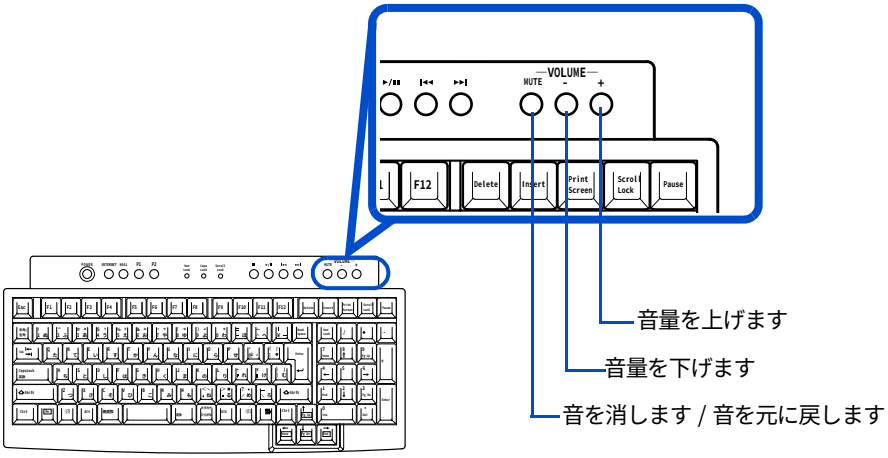


ヒント

・ **[ミュート] にチェックマーク ( ) が付いていると、音が出ません。**

キーボードのキーを使って調整する

キーボードの [＋] キー、[－] キーを押しても、音量を調整できます。[MUTE] キーを押すと、音を消したり、もう一度押すと元に戻せます。



4 音質を設定する（770C のみ）

ここでは、パソコンの音質を設定する方法を説明します。Prius Navistation (以下、Navistation) で DVD を再生しているとき、音質をステレオ→ドルビーヘッドホン DH1 →ドルビーヘッドホン DH2 →ドルビーヘッドホン DH3 →ステレオの順に調節できます。
音質は、リモコンの音質ボタンで設定します。

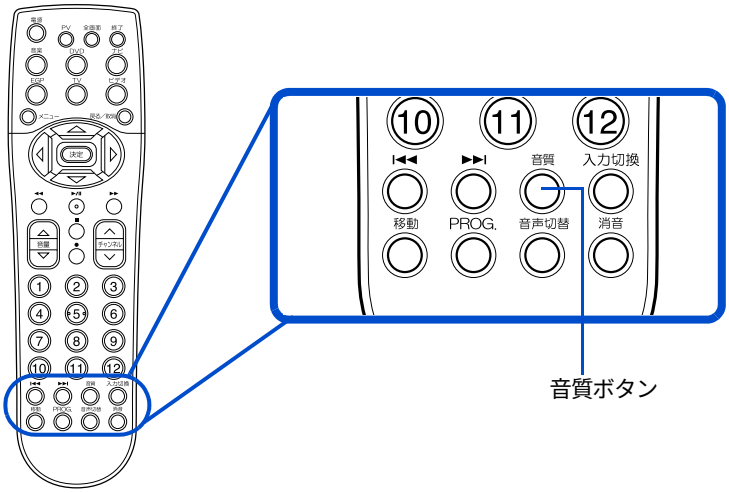
リモコンで音質を設定する

1 リモコンの音質ボタンを押す。

ステレオ、ドルビーヘッドホン DH1、ドルビーヘッドホン DH2、ドルビーヘッドホン DH3 の順に音質モードが替わる。

ヒント

- **現在の音質モードを確認するときは、Navistation で [設定] ボタンをクリックして [設定] を開き、[DVD] タブの [オーディオ] を見ると確認できます。**



ワンタッチキーを設定する

キーボードのワンタッチキーを押すと、設定したアプリケーションが立ち上がります。ここでは、設定の方法を説明します。ご購入時は、次のアプリケーションが立ち上がるように設定されています。必要に応じて変更してください。

●標準の設定

[INTERNET] キー	:Internet Explorer（インターネットエクスプローラ）
[MAIL] キー	:Outlook（アウトルック）
[P1] キー	:Prius Navistation（770C） わくわくナビ（570C）
[P2] キー	: 電子マニュアル

重要

- **アプリケーションを再セットアップすると、[MAIL] キーは「なし」に設定されます。**

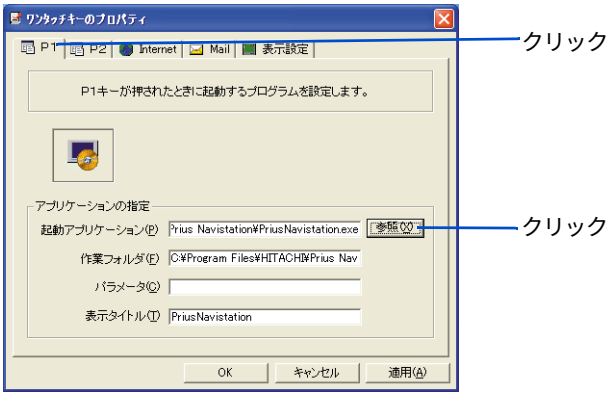
設定の方法

ここでは、[P1] キーにメモ帳を割り付ける場合を例に説明します。

1 通知領域の アイコンをダブルクリックするか、アイコンを右クリックし、メニューから [キーボードの設定] を選択する。

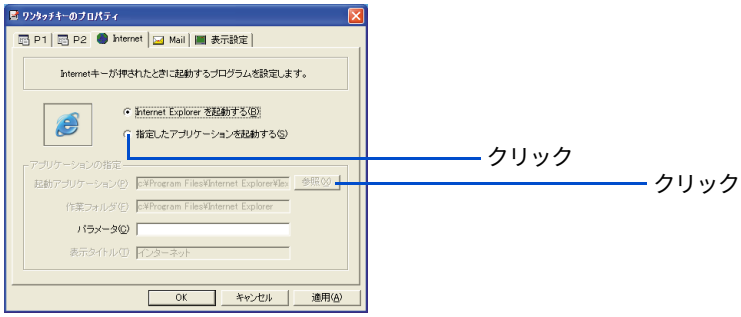
[ワンタッチキーのプロパティ] が表示される。

2 [P1] タブをクリックし、[参照] ボタンをクリックする。



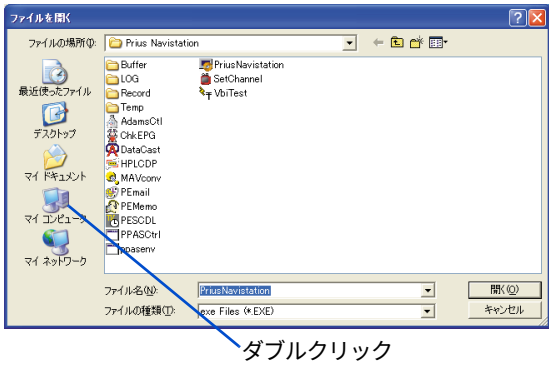
ヒント

- [Internet] タブや [Mail] タブの場合は、[指定したアプリケーションを起動する] をクリックして選択してから、[参照] ボタンをクリックします。

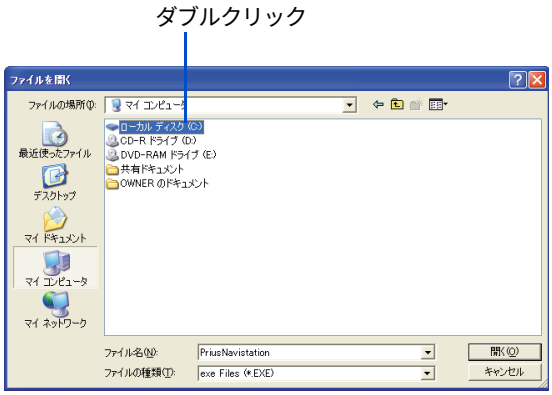


- [INTERNET] キーをインターネットエクスプローラに戻す場合は、[Internet] タブで [Internet Explorer を起動する] をクリックして選択し、手順 6 へ進みます。
  [MAIL] キーを Outlook に戻す場合は、[Mail] タブで [標準のメールソフトを起動する] をクリックして選択し、手順 6 へ進みます。

3 [マイコンピュータ] をダブルクリックする。



4 [ローカルディスク（C:）] をダブルクリックする。



5 **割り付けたいアプリケーションのプログラムを選択する。**
例えば、メモ帳を割り付ける場合は、[Documents and Settings] − [User] − [スタートメニュー] − [プログラム] − [アクセサリ] の順にダブルクリックし、メモ帳をダブルクリックする。
[ワンタッチキーのプロパティ] に戻り、[起動アプリケーション]、[作業フォルダ] が設定される。

6 **必要に応じて、[パラメータ] に、アプリケーション立ち上げ時のパラメーターを入力する。省略してもよい。**

ヒント

- **パラメーターの設定詳細については、各アプリケーションのマニュアルおよびヘルプファイルをご参照ください。**

7 **[表示タイトル] にスペース以外の文字を入力する。**

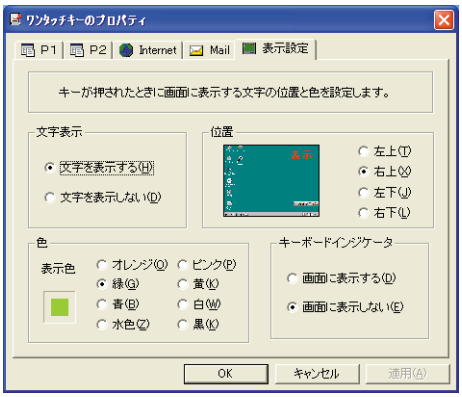
ヒント

- **ワンタッチキーが押されたとき、ディスプレイに表示させるタイトルです。通常アプリケーションを選択すると、そのアプリケーション名が自動的に入力されます。**

8 **[OK] ボタンをクリックする。**
[P1] キーにアプリケーションが割り付けられる。

表示設定

[ワンタッチキーのプロパティ] の [表示設定] タブをクリックすると、[Stop]、[Play&Pause]、[Rew]、[FF] キー以外のワンタッチキーが押されたときの表示の設定ができます。ディスプレイに表示する文字の位置、色を設定します。キーボードインジケーター「Num Lock」、「Caps Lock」、「Scroll Lock」の画面表示有無の設定もできます。



4 メール着信ランプを使う

自動的にメール着信の有無を取得し、メール着信ランプを点灯する機能があります。770C の場合、決まった時間に EPG ダウンロードをするように設定できます。ここでは、その設定方法を説明します。

ヒント

- メール着信ランプは設定した時間にメールサーバーにアクセスし、メールがある場合に点灯します。
- 「Outlook Express 」のメールアカウント設定で [サーバーにメッセージのコピーを置く] が ☑ になっていると、新着メール以外もメールサーバーに残るため、メール着信ランプは点灯します。
- サーバーには容量制限があります。多数のメールをサーバーに残しておくと、新しいメールを受信するための容量が不足してしまいます。そのような場合には、メールを受信できなかったり、古いメールから自動的に削除されることがあります。サーバーに残したメールを定期的に削除してください。メールをサーバーから削除する方法については、各プロバイダーにお問い合わせください。

重要

- インターネットへの接続設定が済んでいないと、使用できません。
- アカウントの種類は、[コンピュータの管理者] でお使いください。それ以外のアカウントでは正しく動作しないことがあります。
- パソコンを複数のユーザーで使用している場合は、自動ログオン設定を行う必要があります。
- EPG ダウンロード設定を行うときは、スタンバイから復帰するときのパスワードを無効にしてください。[コントロールパネル]-[電源管理]-[詳細設定] タブをクリックし、「スタンバイから回復するときにパスワードの入力を求める」のチェックを外します。

参照 複数ユーザーで使用する→『パソコン入門』4 章の「一台のパソコンを複数の人で使う」

参照 インターネットの設定詳細について→『始めよう！インターネット』1 章の「インターネットに接続する」

メール着信 /EPG ダウンロードの設定 (770C の場合)

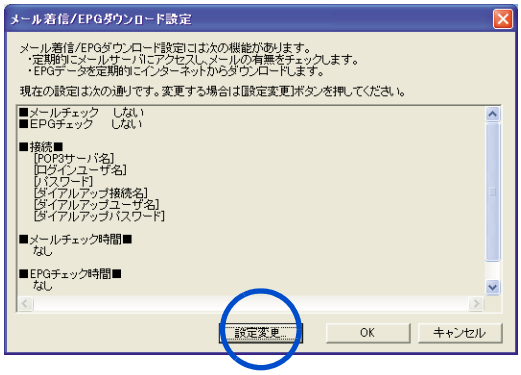
1 デスクトップ左下の [スタート] ボタン－ [すべてのプログラム] － [Prius Navistation] － [メール着信設定] をクリックする。

[メール着信 /EPG ダウンロード設定] が立ち上がる。

ヒント

- [メール着信 /EPG ダウンロード設定] は、わくわくナビからも設定できます。

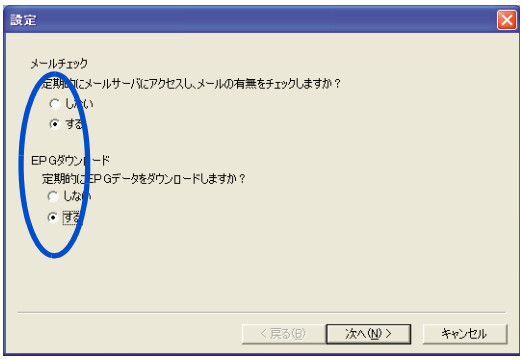
2 [設定変更] ボタンをクリックする。



3 「メールチェック」、「EPG ダウンロード」両方とも「する」を選択してチェックを付け、[次へ] ボタンをクリックする。

ヒント

- 「メールチェック」、「EPG ダウンロード」のどちらか一方のみ設定することもできます。
- どちらか一方の設定内容を変更するときは、変更しないほうについても設定し直してください。



画面が切り替わる。

4 をクリックし、接続名をクリックする。

重要

- 接続名がないときは [キャンセル] ボタンをクリックし、このメール着信設定を終了します。インターネットへの接続を設定してください。

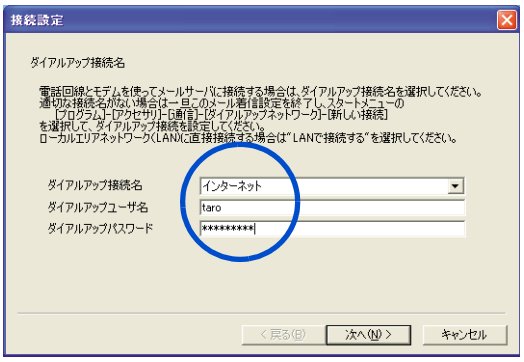
参照 インターネット接続の設定方法について→『始めよう！インターネット』1 章の「インターネットに接続する」

5 [ダイアルアップユーザ名] 欄にユーザー名を入力する。

6 [ダイアルアップパスワード] 欄にパスワードを入力する。

ヒント

- 電話回線とモデム以外でメールサーバーに接続している場合は、[ダイアルアップユーザ名]、[ダイアルアップパスワード] の入力は必要ありません。

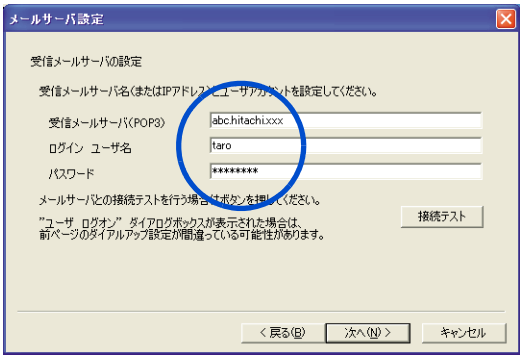


7 **[次へ] ボタンをクリックする。**
手順 3 で、「メールチェック」を「しない」に設定した場合、手順 14 に進む。
[メールサーバ設定] 画面が表示される。

8 **[受信メールサーバ（POP3）] 欄にプロバイダーの受信メールサーバーを入力する。**

9 **[ログインユーザ名] 欄にユーザー名を入力する。**

10 **[パスワード] 欄にパスワードを入力する。**

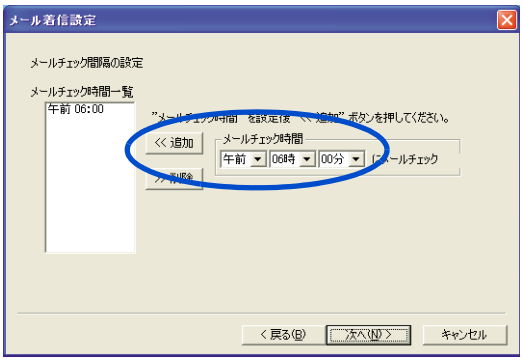


11 **[次へ] ボタンをクリックする。**
画面が切り替わる。

ヒント

- **[接続テスト] ボタンをクリックして、接続テストを行うこともできます。**

12 **をクリックし、メールチェック時間を指定し、[追加] ボタンをクリックする。**



ヒント

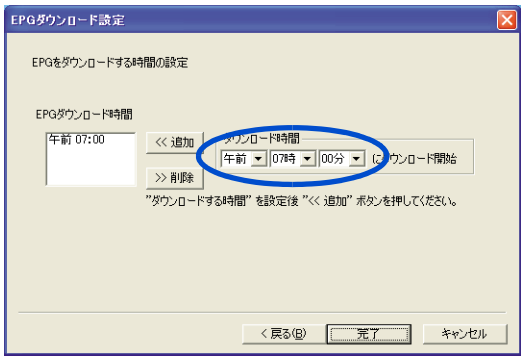
- **メールチェック時間を複数設定したい場合は、手順 12 を繰り返してください。**
- **メールチェック時間を削除したい場合は、不要なメールチェック時間をクリックし、[削除] ボタンをクリックしてください。**
- **メールチェック時間は、32 個まで設定できます。**

13 **[次へ] ボタンをクリックする。**

手順 3 で、「 EPG ダウンロード」を「しない」に設定した場合、手順 16 に進む。

[EPG ダウンロード設定] 画面が表示される。

14 **をクリックし、EPG ダウンロード時間を設定する。**

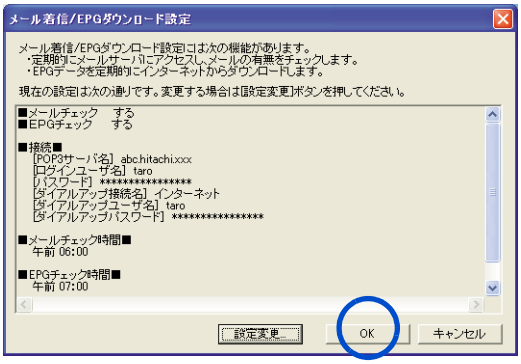


ヒント

・ **EPG ダウンロード時間は、2 個まで設定できます。**

15 **[追加] ー [完了] の順にボタンをクリックする。**

16 **[OK] ボタンをクリックする。**



メールチェック時間、EPG ダウンロード時間が設定され、[メール着信 /EPG ダウンロード設定] 画面が閉じる。

メール着信ランプの設定 (570C の場合)

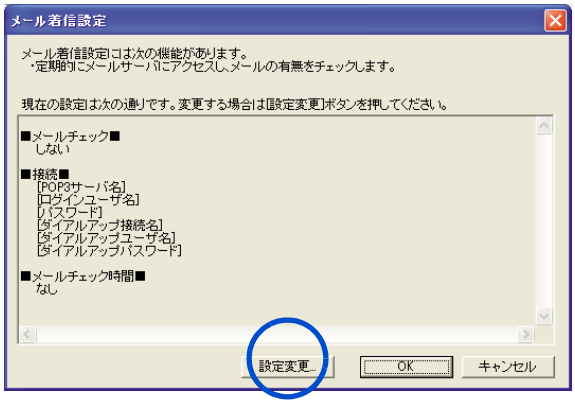
1 **デスクトップ左下の [スタート] ボタンー [すべてのプログラム] ー [メール着信設定] ー [メール着信設定] をクリックする。**

メール着信設定が立ち上がる。

ヒント

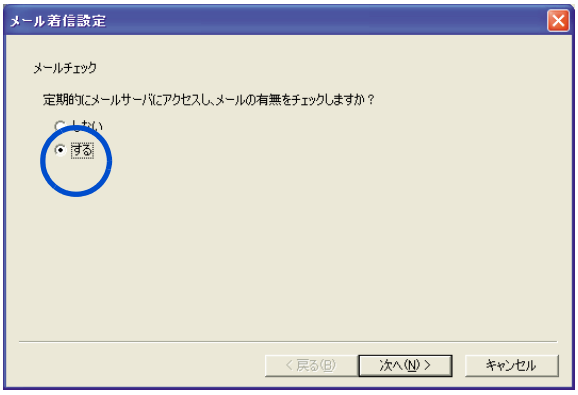
・ **[メール着信設定] は、わくわくナビからも設定できます。**

2 [設定変更] ボタンをクリックする。



画面が切り替わる。

3 [する] をクリックして、○を◉にする。



4 [次へ] ボタンをクリックする。

画面が切り替わる。

5 ▼をクリックし、接続名をクリックする。

重要

- 接続名がないときは [キャンセル] ボタンをクリックし、このメール着信設定を終了します。インターネットへの接続を設定してください。

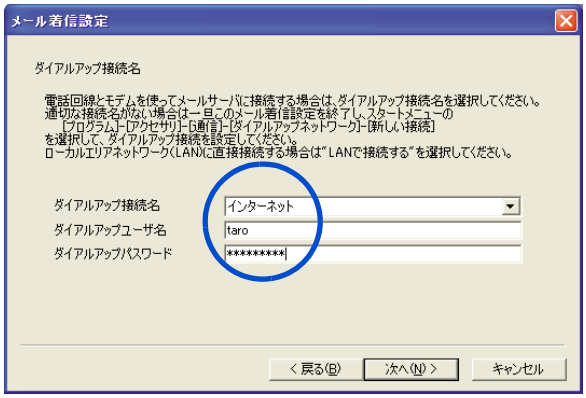
参照 インターネット接続の設定方法について→『始めよう！インターネット』1章の「インターネットに接続する」

6 [ダイアルアップユーザ名] 欄にユーザー名を入力する。

7 [ダイアルアップパスワード] 欄にパスワードを入力する。

ヒント

・ 電話回線とモデム以外でメールサーバーに接続している場合は、[ダイアルアップユーザ名]、[ダイアルアップパスワード] の入力は必要ありません。



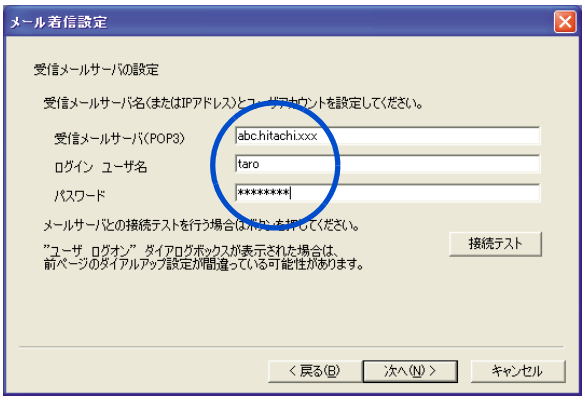
8 [次へ] ボタンをクリックする。

画面が切り替わる。

9 [受信メールサーバ（POP3）] 欄にプロバイダーの受信メールサーバーを入力する。

10 [ログインユーザ名] 欄にユーザー名を入力する。

11 [パスワード] 欄にパスワードを入力する。



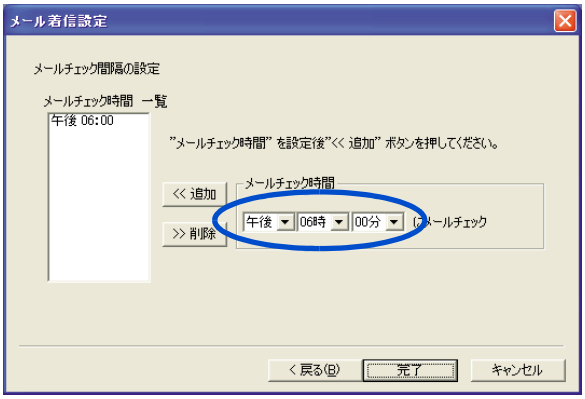
12 [次へ] ボタンをクリックする。

画面が切り替わる。

ヒント

・ [接続テスト] ボタンをクリックして、接続テストを行うこともできます。

13 ▼をクリックし、メールチェック時間を指定する。



ヒント

- **メールチェック時間を複数設定したい場合は、手順 13 、14 を繰り返してください。**
- **メールチェック時間を削除したい場合は、不要なメールチェック時間をクリックし、[削除] ボタンをクリックしてください。**
- **メールチェック時間は、32 個まで設定できます。**

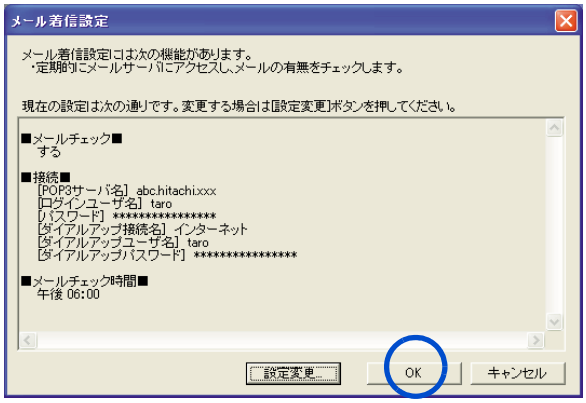
14 [追加] ボタンをクリックする。

[メールチェック時間一覧] に指定した時刻が入力される。

15 [完了] ボタンをクリックする。

画面が切り替わる。

16 [OK] ボタンをクリックする。



メールチェック時間が設定され、[メール着信設定] 画面が閉じる。

2章

消費電力を節約する

この章では、

パソコンの消費電力を節約する方法について

説明します。

4 節電機能とは

ディスプレイや HDD、CPU の働きを一時的に停止させることで、消費電力を節約できます。この機能を節電機能といいます。節約している状態を節電状態と呼びます。

節電機能の種類

機能		内容	電源ランプの状態
ディスプレイの節電		・ディスプレイを消す	点灯（緑）
ハードディスクの節電		・ハードディスクのモーターを停止する	
パソコン全体の節電	スタンバイ	・パソコンの現在の使用状況をメモリーに保存し、パソコンの電源を切る	点滅（オレンジ）
	システムの休止状態	・パソコンの現在の使用状況をハードディスクに保存し、パソコンの電源を切る	点灯（オレンジ）

重要

- **アプリケーションによってはその使用中に節電機能にならなかったり、節電機能が働くまでに時間がかかることがあります。**
- **ディスプレイの節電やスタンバイなど、節電機能と Direct3D スクリーンセーバーを組み合わせて使用した場合、節電状態になったときにパソコンが動作しなくなる場合があります。このような場合にはスクリーンセーバーを別のものに変更するか、節電機能の設定を変更してください。**
- **PC カードの周辺機器を接続したあと、スタンバイに入ると、キーボード、マウスからの復帰ができなくなる場合があります。このような場合、パソコンの電源スイッチを押して復帰させてください。**
- **デジタルビデオなどの i.LINK 機器を使用中にスタンバイに入ると、節電状態からの復帰後、周辺機器が正常に動作しなくなる場合があります。i.LINK 機器を使用する場合には、スタンバイの設定を「なし」にしてください。**

節電する

消費電力を自動で節約したり、特定のボタンを押して節約できます。

自動で節電する

パソコンをしばらく操作しないでいると、自動で消費電力が節約されます。
どのくらいの時間で節電されるかは、[コントロールパネル] の [電源オプション] で設定します。

● 標準の状態

・ 15 分操作しないと・・・・ディスプレイが節電される
・ 20 分操作しないと・・・・スタンバイ状態 (パソコン全体の節電) になる
・ 30 分操作しないと・・・・ハードディスクの電源が切れる

時間を設定する

次の手順で、ディスプレイが省電力ディスプレイに設定されていることを確認し、時間を設定してください。

1 [スタート] ボタン－ [コントロールパネル] をクリックする。

[コントロールパネル] が表示される。

2 [電源オプション] アイコンをダブルクリックする。

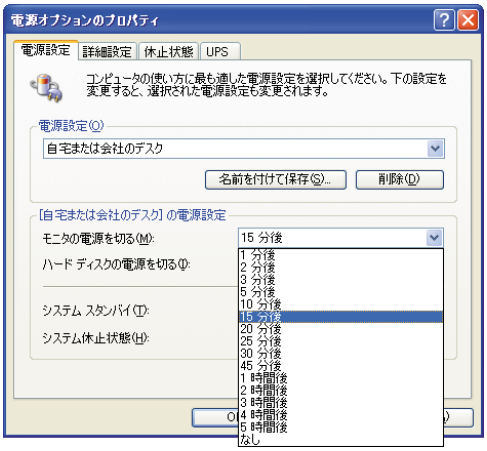
[電源オプションのプロパティ] が表示される。

ヒント

・ **[コントロールパネル] に [電源オプション] アイコンが表示されていないときは、[クラシック表示に切り替える] をクリックすると表示されます。**

3 [電源設定] タブの各項目に、どのくらいパソコンを操作しないでいると節電状態になるかを設定する。

- モニタの電源を切る　　：ディスプレイの節電
- ハードディスクの電源を切る：ハードディスクの節電
- システムスタンバイ　　：パソコン全体の節電（スタンバイ）
- システム休止状態　　：デスクトップの状態の保存



4 [OK] ボタンをクリックする。

重要

- **[システムスタンバイ] を設定しても、時間通りに節電状態にならないことがあります。**
- **[システムスタンバイ] と [モニタの電源を切る] を同じ時間に設定しないでください。パソコンが正しく動かないことがあります。**

すぐに節電する

パソコンから離れるときなどに、次のようにして消費電力を節約できます。

重要

- **音声や動画ファイルの再生中は、ここで説明する方法は行わないでください。節電状態から復帰したとき、正しく音声や動画ファイルを再生できないことがあります。**

[Windows の終了] から節電する

次のようにしてパソコンを節電状態にできます。

1 **[スタート] ボタン－ [終了オプション] をクリックする。**

2 **[スタンバイ] ボタンをクリックまたは、[Shift] キーを押しながら [休止状態] をクリックする。**

スタンバイ状態または、休止状態になる。

電源スイッチで節電する

電源スイッチの設定を変えると、電源スイッチを押したときに、スタンバイにすることができます。この設定は [コントロールパネル] の [電源オプション] で行います。

● 標準の状態

- 電源スイッチを 4 秒未満押したとき：シャットダウン

ヒント

- **「シャットダウン」は、[終了オプション] から Windows を終了するのと同様に、4 秒未満電源スイッチを押すことで電源を切る機能です。**

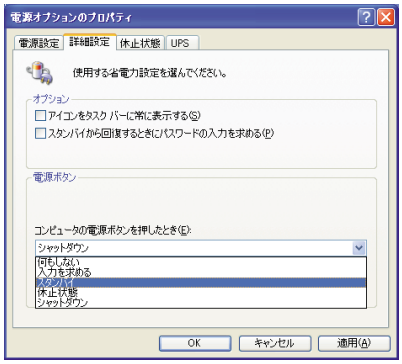
■ 設定方法

1 **[スタート] ボタン－ [コントロールパネル] をクリックして、[コントロールパネル] を開き、[電源オプション] アイコンをダブルクリックする。**

[電源オプションのプロパティ] が表示される。

2 [詳細設定] タブで、各項目を「スタンバイ」に設定する。

・ コンピュータの電源ボタンを押したとき（電源スイッチを押したとき）
・ コンピュータのスリープボタンを押したとき（電源スイッチを押したとき）



3 [OK] ボタンをクリックする。

重 要

・ **スタンバイにするときは、電源ランプがオレンジ色に点滅するまでキーボードのキーを押したり、マウスを動かさないでください。復帰したときに、キーボードやマウスが動作しなくなることがあります。**

節電状態から復帰する

節電状態から復帰させるには、次のように操作してください。

ディスプレイの節電状態からの復帰

・ キーボードの [Shift] キーを押す
・ マウスを操作する

ハードディスクの節電状態からの復帰

・ HDD にアクセスする操作を行う

スタンバイ、休止状態からの復帰

・ パソコンの電源スイッチを押す
・ リモコンの電源ボタンを押す

重要

- **パソコンの電源スイッチは 4 秒以上押さないでください。電源が強制的に切れます。**
- **節電状態から復帰させるときは、20 秒以上時間をおいてください。20 秒未満で復帰させると、キーボードやマウスが正しく動かないことがあります。**
- **スタンバイ状態中にキー入力を行うと、入力したキーが復帰後に有効になることがあります。**
- **コマンドプロンプトを開いた状態でスタンバイに移行した場合は正常に復帰しないことがあります。正常に復帰しない場合はマウスを操作してください。**

4 節電機能を使わないようにするとき

ここでは、どんなときに使わないようにするかや、その設定方法を説明します。

節電機能を使わないようにするとき

次のときは、スタンバイにならないようにしてください。これらの機能やプログラムでデータを扱っている最中に節電機能が働くと、データが失われることがあります。

- 再セットアップ中
- システムやアプリケーションの立ち上げ中
- ディスク (HDD、FD、CD-ROM、CD-R、CD-RW、DVD-ROM、DVD-R、DVD-RAM など) の読み書き中やフォーマット中
- 通信カード、通信ソフトで節電機能の使用が制限されている場合
- プリンターの印字中
- 音楽または動画の再生中はスタンバイ状態にしないでください。復帰後、音楽または動画が正しく再生されないことがあります。
- reserMail を使用する場合（770C のみ）

節電機能を使わないようにするには

次の手順で、節電機能が働かないようにします。

1 [スタート] ボタン－ [コントロールパネル] をクリックする。

[コントロールパネル] が表示される。

2 [電源オプション] アイコンをダブルクリックする。

[電源オプションのプロパティ] が表示される。

3 [電源設定] タブの各項目を「なし」に設定する。

- [モニタの電源を切る]
- [ハードディスクの電源を切る]
- [システムスタンバイ]
- [システム休止状態]

4 [詳細設定] タブの各項目を「シャットダウン」に設定する。

- [コンピュータの電源ボタンを押したとき]
- [コンピュータのスリープボタンを押したとき]

5 [OK] ボタンをクリックする。

3章

パソコンを拡張する

この章では、

周辺機器の接続方法と使用方法を

説明します。

4 周辺機器接続時に必要な設定

ここでは、周辺機器を接続したときに必要な設定とその参照先をまとめてあります。なお、次の表で「必要な設定」が「なし」となっている場合でも周辺機器に付属のマニュアルを参照し、必要な場合は設定してください。

接続した周辺機器	必要な設定	参照先
USB 機器	なし	USB 機器付属のマニュアル
i.LINK 機器	なし	i.LINK 機器付属のマニュアル
LAN	なし	・本章の「LAN を接続する」
PC カード	なし	PC カード付属のマニュアル
2 台目のディスプレイ	・表示ドライバーのセットアップ ＊1 ・画面の設定（必要に応じて）	・4 章の「ドライバー、ユーティリティーのセットアップ」の「表示ドライバー」 ・本章の「ディスプレイを複数接続する」
マイク	サウンドドライバーのセットアップ＊1	・4 章の「ドライバー、ユーティリティーのセットアップ」の「サウンドドライバー」
ステレオスピーカー		
光デジタルオーディオ機器	なし	光デジタルオーディオ機器付属のマニュアル
ヘッドホン	・サウンドドライバーのセットアップ＊1 ・ドルビーヘッドホンの設定＊2	・4 章の「ドライバー、ユーティリティーのセットアップ」の「サウンドドライバー」 ・本章の「ヘッドホン、マイクを接続する」「ドルビーヘッドホンで聴く」
メモリーボード	なし	・本章の「メモリーボードを取り付ける」
拡張ボード		
PCI ボード	なし	・本章の「拡張ボードを取り付ける」

＊1：標準（パソコン購入時の状態）で、セットアップまたは設定済みです。
＊2：ヘッドホンで、ドルビーヘッドホンサウンドを聴く場合

ヒント

- **周辺機器の取り扱いについては、各メーカーにお問い合わせください。**

周辺機器と必要なケーブル類

周辺機器を購入しても、ケーブル類が付属していないことがあります。
ここでは、周辺機器と必要なケーブル類についてまとめています。

周辺機器	必要なケーブル類
プリンター	プリンターケーブル (USB)
スキャナー	スキャナーケーブル (USB)
デジタルビデオカメラ (i.LINK 機器)	S400 4 ピンケーブル、S400 6 ピンケーブル
スマートメディア コンパクトフラッシュ	PC カードアダプター

使用できる周辺機器

プリンター、デジタルカメラ、スキャナーなど、動作を確認した周辺機器を、日立のホームページ「Prius World」で紹介しています。
「Prius World」を開いたら、「SUPPORT」項目でご確認ください。

参照 **Prius World の URL については、『困った時の Q&A』表紙の次のページの「パソコンの最新情報と困った時の対策情報」をご参照ください。**

ヒント

- **市販の周辺機器をご利用になる場合、Windows XP で動作するか、各メーカーにお問い合わせください。**

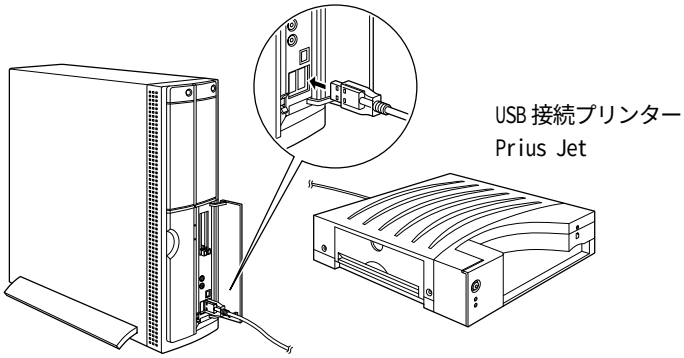
4 USB 機器を接続する

このパソコンには、フロッピーディスクドライブやプリンターなどの USB (Universal Serial Bus) 機器を取り付けることができます。ここでは、接続方法の一例を説明します。詳しくは、USB 機器のマニュアルをご参照ください。

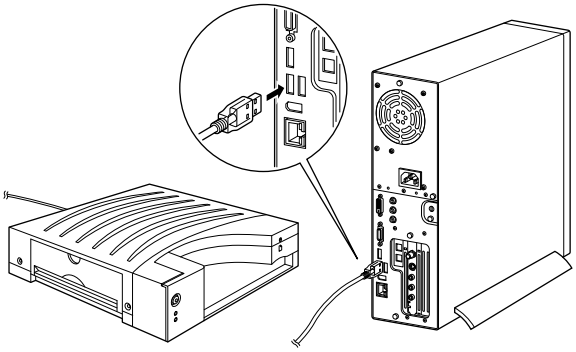
接続方法

1 USB ケーブルを前面または背面の USB コネクターに接続する。

● パソコン前面への接続



● パソコン背面への接続



重要

- コネクターは、正しい向き、正しい角度で差し込んで接続してください。コネクターがきちんと差し込まれていないと、動作しなかったり、誤動作したりします。
- コネクターの抜き差しは、コネクター部分を持って行ってください。
- パソコン前面の USB コネクターは、接続する USB 機器によっては、動作しないことがあります。この場合は、パソコン背面の USB コネクターに接続してください。
- USB 機器によっては、「ハードウェアの取り外し」を行わないと、安全に取り外せないことがあります。

参照 詳細について→本章の「PC カードを使う」「取り外し手順」

USB プリンターを使用する方法

USB プリンターを使用するには、ドライバーのインストールが必要です。
プリンタードライバーのインストールについては、プリンターに付属のマニュアルをご参照ください。

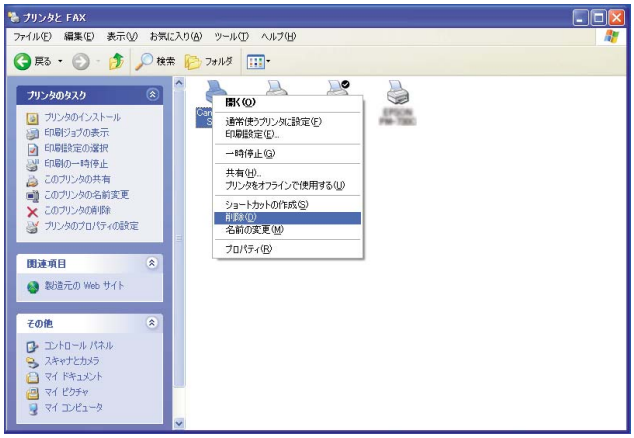
プリンタードライバーの削除方法

パソコンからプリンターを取り外し、Windows からプリンタードライバーを削除するときは、次のようにします。お使いのプリンターにドライバーを削除（アンインストール）するユーティリティーがある場合は、そちらをお使いください。
次の説明は一般的な削除方法です。

1 **[スタート] ボタン－ [コントロールパネル] － [プリンタと FAX] をクリックする。**

[プリンタと FAX] が表示される。

2 **削除するプリンターのアイコンを右クリックし、[削除] をクリックする。**



3 **メッセージが表示されたら、[はい] ボタン（または [OK] ボタン）を何度かクリックする。**

ヒント

- **削除したプリンターが通常使うプリンターに設定されていたときは、通常使うプリンターを変更するメッセージが表示されます。[OK] ボタンをクリックしてください。**

使用するプリンターの選択

通常使うプリンターを設定する方法と、一時的に別のプリンターに切り替えて印刷する方法を説明します。

■ [通常使うプリンター] を設定する

1 [スタート] ボタン－ [コントロールパネル] － [プリンタと FAX] をクリックする。

[プリンタと FAX] が表示される。

2 通常使うプリンターのアイコンを右クリックし、[通常使うプリンタに設定] をクリックする。

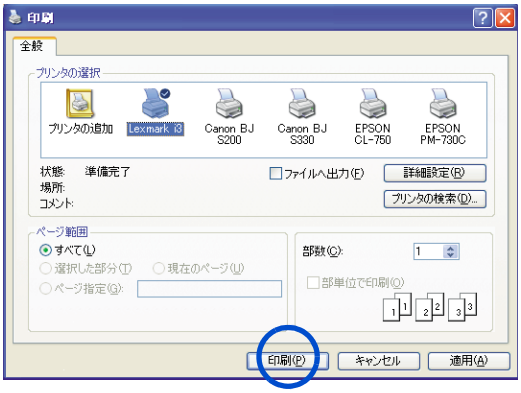
以降、標準で印刷するプリンターは設定したプリンターになる。

■ 使用するプリンターを一時的に切り替える

1 印刷を行うアプリケーションの [ファイル] メニュー－ [印刷] をクリックする。

[印刷] が表示される。

2 [プリンタの選択] から、一時的に使用するプリンターを選び、[印刷] ボタンをクリックする。



ヒント

- **画面は一例です。**

i.LINK 機器を接続する

このパソコンには、デジタルビデオカメラなどの i.LINK 機器を取り付けることができます。ここでは、接続方法の一例を説明します。詳しくは、i.LINK 機器のマニュアルをご参照ください。

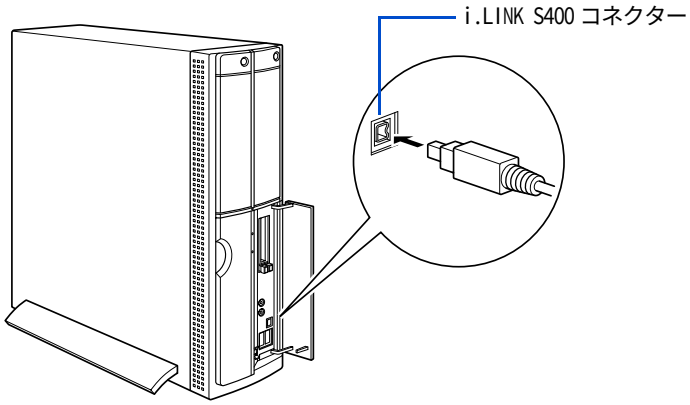
接続方法

1 i.LINK ケーブル（別売）を前面または背面の i.LINK S400 コネクターに接続する。

● パソコン前面への接続

ヒント

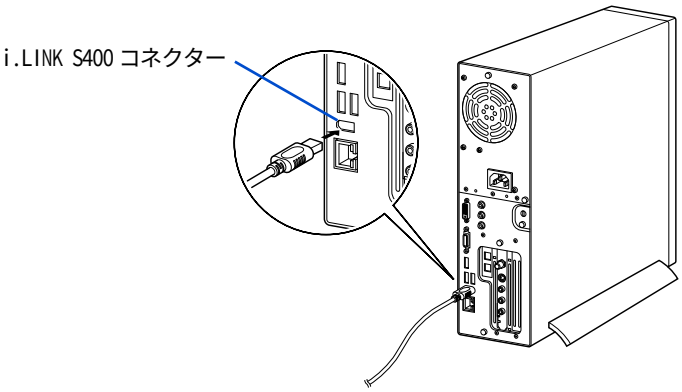
・ コネクターは 4 ピンタイプです。



● パソコン背面への接続

ヒント

・ コネクターは 6 ピンタイプです。



重要

- コネクターは、正しい向き、正しい角度で差し込んで接続してください。コネクターがきちんと差し込まれていないと、動作しなかったり、誤動作したりします。
- コネクターの抜き差しは、コネクター部分を持って行ってください。
- i.LINK 機器によっては、電源を入れたまま抜き差しができない機器があります。

参照 詳細について→ i.LINK 機器付属のマニュアル

2 i.LINK ケーブルのもう一方のコネクターを、デジタルビデオカメラなどの i.LINK コネクターに接続する。

ヒント

- 接続しても i.LINK 機器が動作しない場合は、パソコンおよび i.LINK 機器の電源をすべて切ってから接続し直し、i.LINK 機器、パソコンの順で電源を入れ直してください。

重要

- i.LINK 機器によっては「ハードウェアの取り外し」を行わないと、安全に取り外せないことがあります。

参照 詳細について→本章の「PC カードを使う」「取り外し手順」

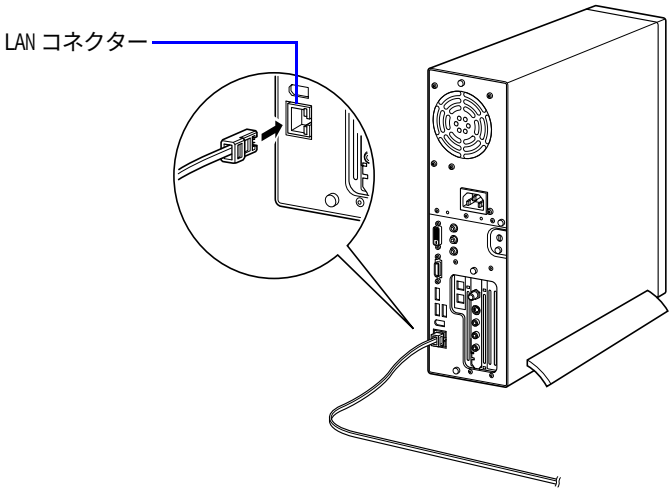
LAN を接続する

LAN ケーブルを接続して、LAN 通信を行うことができます。LAN ケーブルの接続方法を説明します。

接続方法

1 パソコンの電源を切り、周辺機器が接続されている場合は、周辺機器の電源を切る。

2 パソコン背面の LAN コネクターに LAN ケーブル（別売）を接続する。



ヒント

- このあと、ソフトウェアの設定などが必要です。

参照 LAN でインターネットに接続する一般的な設定→『始めよう！インターネット』1 章の「LAN でインターネットに接続する」

重要

- コネクターは、正しい向き、正しい角度で差し込んで接続してください。コネクターがきちんと差し込まれていないと、動作しなかったり、誤動作したりします。
- コネクターの抜き差しは、コネクター部分を持って行ってください。
- LAN 設定などの訪問サポートをご用意しております。有償サービスについては FLORA 安心コールセンターにお問い合わせください。

参照 お問い合わせ先→『困った時の Q&A』3 章の「お問い合わせ情報」

4 PC カードを使う

このパソコンには、PC カードスロットが 2 つ用意されています。PC カードスロットには、SCSI カードなどの PC カードを取り付けることができます。

PC カードスロット	取り付けられる PC カード
スロット 1	TYPEI/TYPEII/TYPEIII、Card Bus 対応
スロット 2	TYPEI/TYPEII、Card Bus 対応

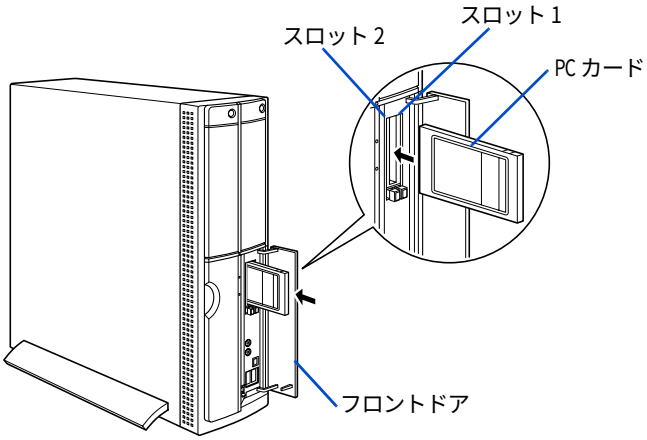
PC カードを取り付けるときは、あらかじめ付属のマニュアルを読み、取り付け方法を理解した上で取り付けてください。

ヒント

- **Type III の PC カードは厚いため、スロット 1 に 1 枚しか取り付けられません。**

挿入手順

1 PC カードの向きを確認して、PC カードを奥まで差し込む。



重要

- **PC カードが正しく取り付けられたかご確認ください。確認方法については、PC カードに付属のマニュアルをご参照ください。**
- **PC カードの形状によっては、PC カードを入れた状態ではフロントドアを閉じられないことがあります。**

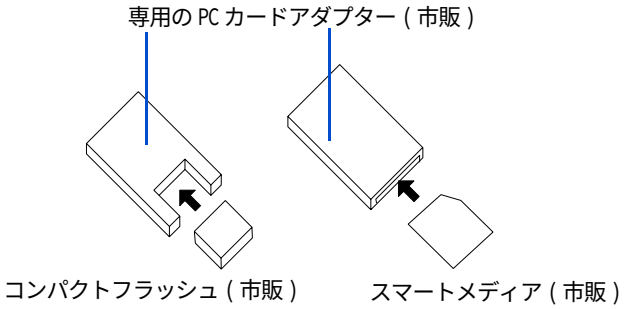
ヒント

- **接続しても PC カードが動作しない場合は、一度取り出し、パソコンの電源を切ってから入れ直してみてください。**

スマートメディアやコンパクトフラッシュの場合は、次のように専用の PC カードアダプターに接続してから、PC カードアダプターをパソコンの PC カードスロットに接続する。

ヒント

・ **スマートメディアやコンパクトフラッシュはデジタルカメラなどの記憶メモリーです。**



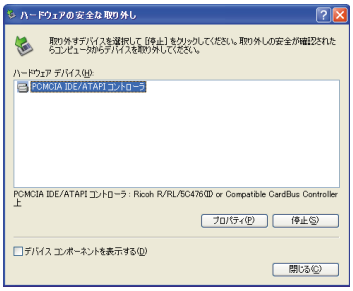
取り外し手順

重要

・ **次の手順で取り出さないと、カードやパソコンの情報が壊れることがあります。**

1 Windows の通知領域の アイコンを右クリックし、[ハードウェアの安全な取り外し] をクリックする。

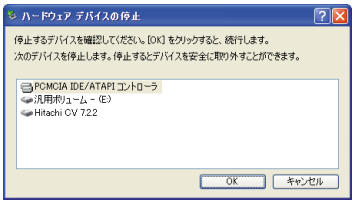
[ハードウェアの安全な取り外し] が表示される。



参照 **通知領域について→『パソコン入門』の「1. パソコンを始めよう」**

2 [停止] ボタンをクリックする。

[ハードウェアデバイスの停止] が表示される。

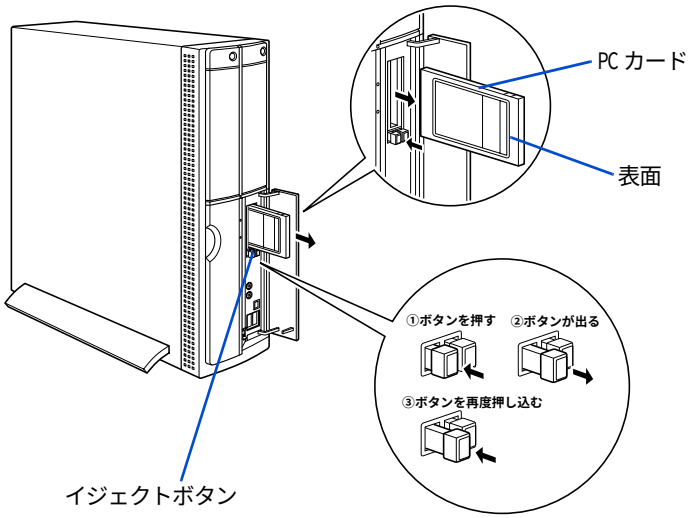


3 取り外す PC カードをクリックして選択し、[OK] ボタンをクリックする。

[～は安全に取り外すことができます。] と表示される。

4 [閉じる] ボタンをクリックする。

5 イジェクトボタンを押し、手前にイジェクトボタンが出てきたらまっすぐに押し込み、PC カードが出てきたことを確認して引き抜く。



ディスプレイを複数接続する

2 台目のディスプレイを接続すると、2 台のディスプレイに同じ画面を表示 (同時表示) することができます。

接続できる 2 台目のディスプレイについて

ディスプレイを 2 台使用する場合は、2 台目のアナログインタフェースディスプレイ（以下、アナログ I/F ディスプレイ）を、アナログコネクターに接続します。

重要

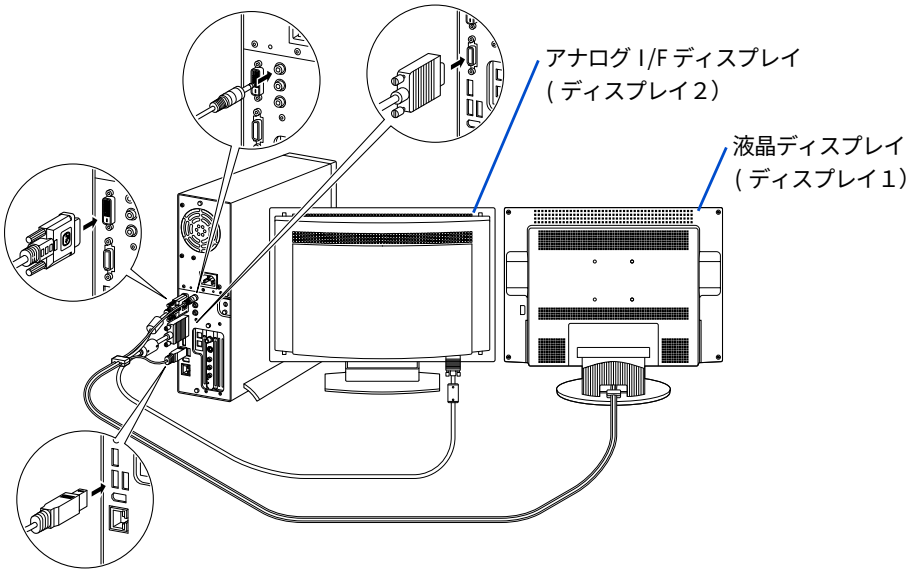
- **ここで、説明するデジタルコネクターは、DVI 規格のデジタルコネクターです。**

ヒント

- **ディスプレイを 2 台接続して同時表示を行うときは、アナログディスプレイのリフレッシュレートは、デジタルディスプレイのリフレッシュレートと同じになります。**
- **画面を拡大して、2 台のディスプレイに表示するマルチディスプレイ表示は行えません。**

接続方法

パソコンにセットの液晶ディスプレイと 2 台目のディスプレイを次のように接続してください。接続するときは、パソコンとディスプレイのコンセントを外した状態で行ってください。



同時表示にする

2 台目のディスプレイを接続して同時表示にする手順を説明します。

1 [スタート] ボタン－ [コントロールパネル] をクリックして、[コントロールパネル] を開き、[画面] アイコンをダブルクリックする。

[画面のプロパティ] が表示される。

ヒント

- **[コントロールパネル] に [画面] アイコンが表示されていないときは、[クラシック表示に切り替える] をクリックすると表示されます。**

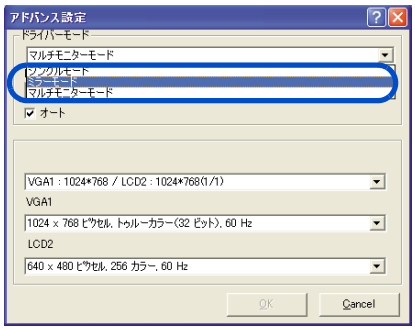
2 [設定] タブをクリックし、[詳細設定] ボタンをクリックする。

[プラグアンドプレイモニタと SiS 650_651_M650_740 のプロパティ] が表示される。

3 [ユーティリティ マネージャ] タブをクリック、[ドライバ モードの設定] ボタンをクリックする。

[アドバンス設定] 画面が表示される。

4 [ドライバーモード] を [ミラーモード] に設定し、[OK] ボタンをクリックする。



「パソコンを立ち上げ直してください」という内容のメッセージが表示される。

5 [はい] ボタンをクリックし、パソコンを立ち上げ直す。

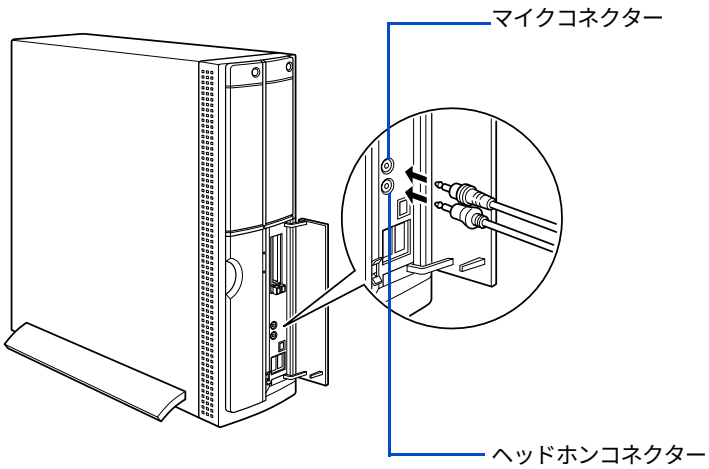
同時表示設定で、パソコンが立ち上がる。

ヘッドホン、マイクを接続する

マイクを使って自分の声など外部の音声を録音し、パソコンに音声データとして保存することができます。ヘッドホンで、音声データを再生したり、ゲームソフトの BGM なども楽しめます。さらにお手持ちのヘッドホンを接続し、ドルビーヘッドホンの設定を行うと、映画館で聴いているような音声を聴くこともできます。

接続方法

1 パソコン前面のヘッドホンコネクターにヘッドホンのコネクターを、マイクコネクターにマイクのコネクターを接続する。



⚠注意

- **ヘッドホンやイヤホン使用時は、適度な音量でご使用ください。音量が大きすぎると難聴になるおそれがあります。**

マイクを使って録音する

マイクを使って自分の声などを録音し、パソコンに音声データとして保存することができます。

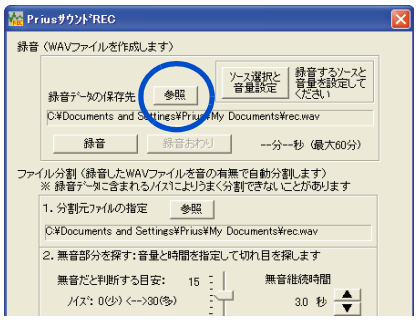
参照 **録音レベルの調整→ 1 章の「音量を調整する」**

ここでは Prius サウンド REC を使って録音する方法を説明します。

1 [スタート] ボタン－ [すべてのプログラム] － [Prius ツール] － [Prius サウンド REC] の順にクリックする。

[Prius サウンド REC] が表示される。

2 [参照] ボタンをクリックする。



[wav ファイルの選択] 画面が表示される。

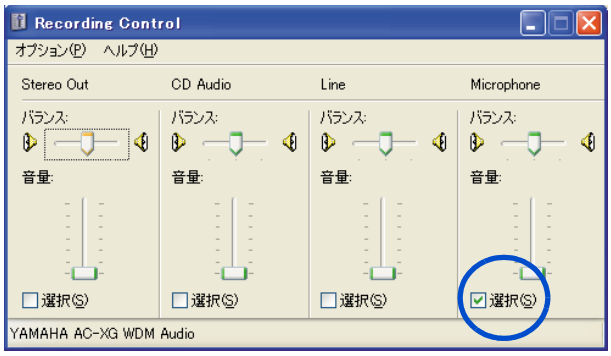
3 録音する wav ファイルを保存するフォルダーを指定し、ファイル名を入力し、[保存] ボタンをクリックする。

[Prius サウンド REC] 画面に戻り、[参照] ボタンの下に入力したファイル名が表示される。

4 [ソース選択と音量設定] ボタンをクリックする。

[Recording Control] 画面が表示される。

5 [Microphone] の [選択] をクリックしてチェックを入れ、スライドバーをドラッグして音量を調整する。



6 [×] ボタンをクリックする。

画面が閉じる。

7 [録音] ボタンをクリックする。

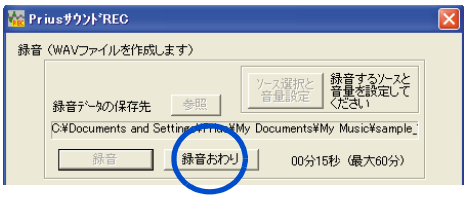
[録音の開始] 画面が表示される。

8 **[開始] ボタンをクリックする。**

録音が始まる。

9 **マイクに向かって話す。**

10 **[録音おわり] ボタンをクリックする。**



録音が終了する。

重要

- **スピーカーにマイクを近づけるとハウリングすることがあります。**
- **マイクの録音レベルを上げすぎるとハウリングすることがあります。適度なレベルに調整してお使いください。**
- **録音中は一時的にウィンドウの移動や終了などの操作ができません。**

ヒント

- **Prius サウンド REC の使い方は、[Prius サウンド REC] 画面の [ヘルプ] ボタンをクリックすると、参照できます。**

ドルビーヘッドホンで聴く

ドルビーヘッドホン機能を使用して、ドルビーデジタル 5.1 チャンネルに対応した DVD ビデオを臨場感のある音声で楽しむことができます。
ドルビーヘッドホン機能とは、映画館で聴くような立体的な音声を、ヘッドホンから再生することを可能にする機能のことです。ドルビーヘッドホン機能を使用するには、Prius Navistation でドルビーデジタルの設定を行う必要があります。

参照 **ドルビーヘッドホンの設定について→『始めよう！ TV エンターテインメント』6 章の「変えたいこと、一覧」「[DVD] タブ画面」**

4 光デジタルオーディオ機器を接続する

このパソコンには、光デジタル入力が可能な MD レコーダーなどの光デジタルオーディオ機器を取り付けることができます。さらに、光デジタル入力端子付きのサラウンドアンプなどを接続し、映画館で聴いているような音声で聴くこともできます。

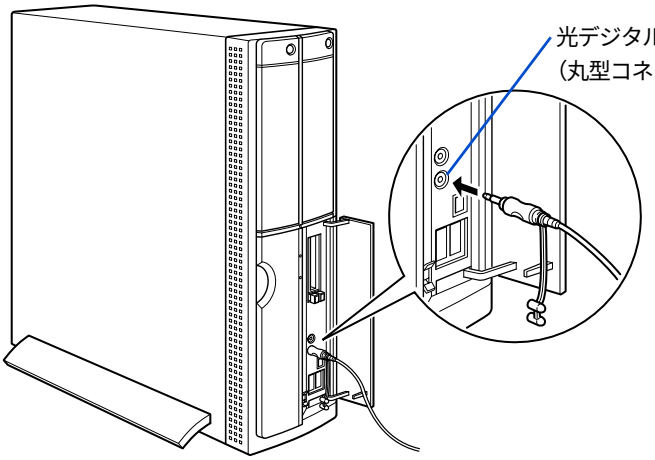
ここでは、接続方法の一例を説明します。詳しくは、光デジタルオーディオ機器のマニュアルをご参照ください。

接続方法

1 光デジタルケーブル（市販品）を光デジタル音声出力コネクターに接続する。

ヒント

- 光デジタルケーブルのコネクターには、角型と丸型があります。パソコン側のコネクターは、丸型です。接続する機器の形状に合わせてケーブルをご購入ください。



ヒント

- 接続しても光デジタルオーディオ機器が動作しない場合は、パソコンおよび光デジタルオーディオ機器の電源をすべて切ってから接続し直し、光デジタルオーディオ機器、パソコンの順で電源を入れ直してみてください。
- 5.1ch サラウンドをお楽しみいただくには、5.1ch 対応の光デジタルオーディオ機器が必要です。また、DVD 再生ソフトの、S/PDIF 出力を ON にしてください。
- DVD の音声を、光デジタル入力で MD レコーダーに録音する場合、S/PDIF 出力を OFF にし、2 スピーカーで録音してください。

パソコンカバーの取り外し / 取り付け

メモリーボードなどを増設するには、パソコンカバーを取り外します。
ここでは、メモリーボードを取り付けるまでの前準備の手順を説明します。

作業時の注意点

内蔵周辺機器の増設には細心の注意を払ってください。
特に、次の点は必ずお守りください。

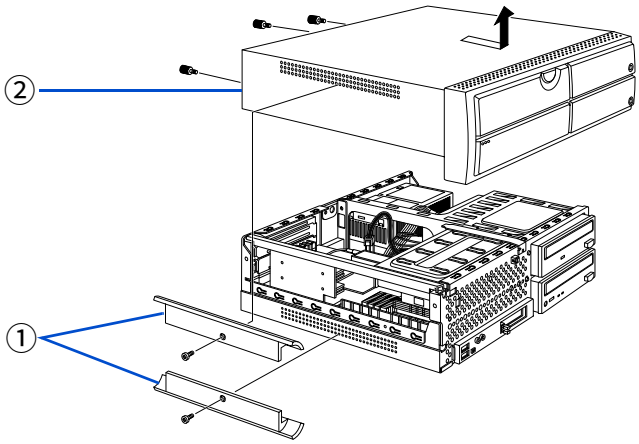
⚠警告 **■周辺機器の増設や接続**
周辺機器を増設・接続するときは、電源プラグをコンセントから抜いてください。マニュアルの説明に従い、マニュアルで使用できることが明記された周辺機器を使用してください。それ以外の周辺機器を使用すると、接続仕様の違いによる周辺機器やパソコンの故障から発煙、発火、火災や故障の原因になります。

⚠注意 **■パソコン内が冷えるまで待つ**
パソコンの電源を切った直後は、カバーや CPU の冷却フィンなど内部の部品が熱くなっています。
約 30 分時間をおき、熱が冷めてから増設作業を始めてください。電源を切った直後に増設作業を行うと、やけどをする危険があります。

⚠注意 **■綿手袋を着用する**
パソコンの移動、部品の追加などで金属やプラスチックなどの端面に触れる場合は、注意して触れてください。または、綿手袋を着用してください。けがをするおそれがあります。

注意 **■体から静電気を逃がしておく**
パソコンや内蔵周辺機器は精密機器です。わずかな静電気も故障の原因になります。あらかじめ金属に触れるなどして、体から静電気を逃がしておいてください。

取り外し手順



1 電源スイッチを OFF にし、電源プラグを抜く。また、パソコンに接続されているケーブルをすべて外す。

2 縦置きで使用している場合はスタンド①を外し、パソコンを横にする。

3 パソコン背面にある、パソコンカバー②のネジ 3 本を外して、パソコンの上カバーをしっかり押さえ、前面側に押してから持ち上げる。

⚠警告

- パソコンカバーを取り外すときは、電源スイッチを OFF にし、電源プラグをコンセントから抜き、すべてのケーブル類をパソコンから外してから行ってください。パソコンの電源を切っても、一部の回路には、通電しているため、思わぬ接触など作業の不具合発生時に故障や劣化による火災の原因になります。

重要

- ケーブル類の抜き差しは、プラグまたはコネクター部を持って行ってください。
- パソコンカバーの取り外し、取り付けのときにパソコンカバーを内部のケーブルに引っかけないようにしてください。

取り付け手順

1 パソコンカバー②を取り外しと逆の手順で取り付ける。

2 縦置きの場合はスタンド①を取り外しと逆の手順で取り付ける。

メモリーボードを取り付ける

メモリーボードを増設すると、メモリー容量を増やすことができます。最大1024MB まで増設できます。

メモリーボードとメモリーボードソケットの組み合わせかた

メモリーボードは、この表の組み合わせに従って増設してください。

メモリー	ソケット		
実装容量＊1	1	2	
256MB	―	256MB	＊2
320MB	64MB	256MB	
384MB	128MB	256MB	
512MB	256MB	256MB	＊3
	―	512MB	
576MB	64MB	512MB	
640MB	128MB	512MB	
768MB	256MB	512MB	
1024MB	512MB	512MB	

＊1：実装容量は、［コントロールパネル］－［システム］アイコン－［システムのプロパティ］の［全般］タブで確認できます。この容量は目安です。
＊2：570C 購入時のメモリー容量。
＊3：770C 購入時のメモリー容量。

ヒント

- **ソケット 1、2 の組み合わせが逆でも増設できます。**

重要

- **仕様の異なるメモリーボードを取り付けないでください。正常に動作しない場合があります。**

参照 **メモリーボードの仕様について→7 章の「メモリーボードの仕様」**

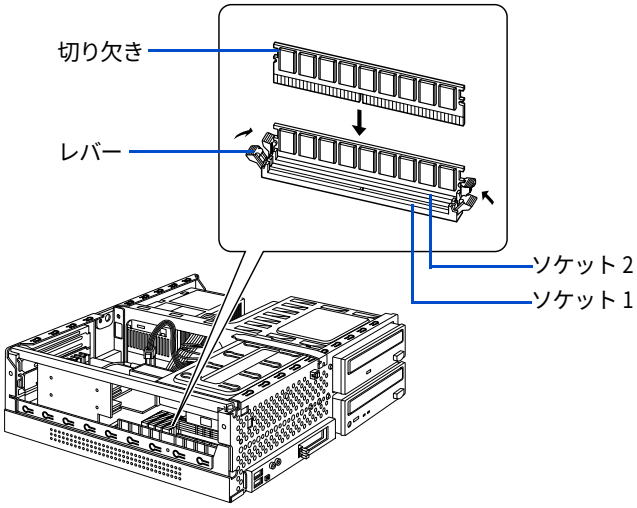
取り付け手順

1 縦置きの場合、スタンド①を取り外す。

2 パソコンカバー②を取り外す。

参照 取り外す方法について→本章の「パソコンカバーの取り外し / 取り付け」

3 メモリーボードを取り付けるソケットのレバーを外側に倒し、ソケットにメモリーボードを差し込む。レバーが切り欠きにかかるまで少しずつ押し込む。



ヒント

- 指が入りにくい場合は、上から割りばしなどの木の棒で押し、取り付けてください。

4 パソコンカバー②を取り付ける。

5 縦置きの場合、スタンド①を取り付ける。

ヒント

- パソコンの電源を入れ、立ち上げ時に表示されたメモリー容量が、増設しただけ増えているかご確認ください。
- メモリー容量は、［コントロールパネル］－［システムのプロパティ］の［全般］タブで確認できます。

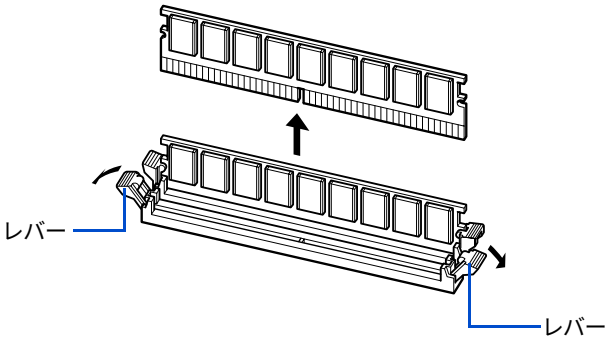
取り外し手順

1 縦置きの場合、スタンド①を取り外す。

2 パソコンカバー②を取り外す。

参照 取り外す方法について→本章の「パソコンカバーの取り外し / 取り付け」

3 レバーを図の矢印の方向に倒し、メモリーボードを浮き上がらせ、ゆっくりと上に引き抜く。



4 パソコンカバー②を取り付ける。

5 縦置きの場合、スタンド①を取り付ける。

ヒント

- パソコンの電源を入れ、立ち上げ時に表示されたメモリー容量が、取り外しただけ減っているかご確認ください。
- メモリー容量は、［コントロールパネル］－［システムのプロパティ］の［全般］タブで確認できます。

4 拡張ボードを取り付ける

取り付けられる拡張ボード

このパソコンには、拡張スロットが３つ用意されています。拡張スロットには、SCSI ボードなどの拡張ボードを取り付けることができます。

拡張スロット	取り付けられる拡張ボード
スロット 1	PCI 規格（ボードサイズは、幅 107㎜、奥行 177㎜ 以下）
スロット 2 ＊1	PCI 規格（ボードサイズは、幅 107㎜、奥行 177㎜ 以下）
スロット 3	モデム専用スロット (モデムボード専用で使用済み。増設には使用できません。)

＊1 ：770C の場合、TV チューナーボードを取り付け済み。

拡張ボードを取り付けるときは、あらかじめ付属のマニュアルを読み、取り付け方法を理解してください。

重要

- **拡張ボードの大きさによっては、取り付けられない場合があります。ボードサイズをご確認ください。**

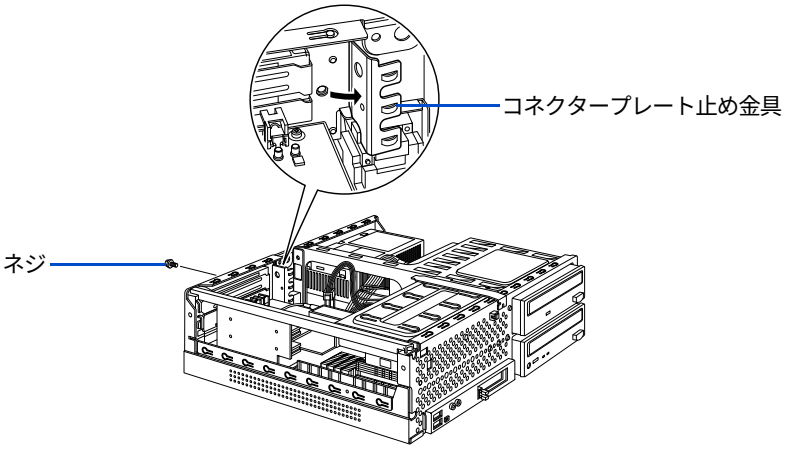
取り付け手順

1 縦置きの場合、スタンド①を取り外す。

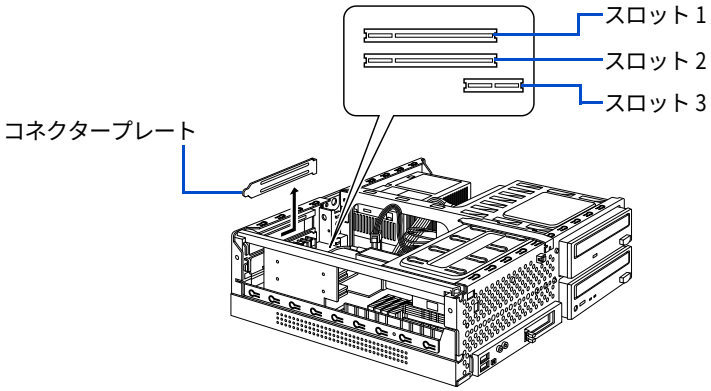
2 パソコンカバー②を取り外す。

参照 取り外す方法について→本章の「パソコンカバーの取り外し / 取り付け」

3 ネジを外し、コネクタープレート止め金具を開く。



4 スロットをふさぐコネクタープレートを取り外す。



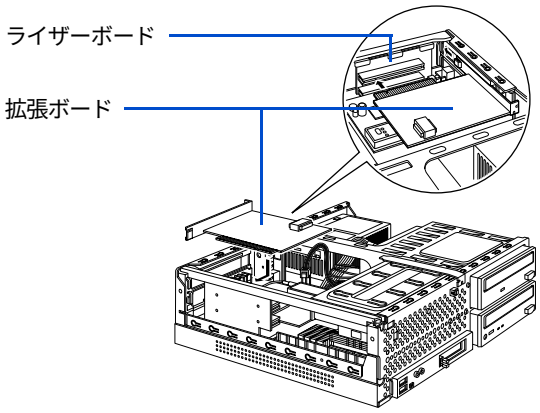
ヒント

- 取り外したコネクタープレートは大切に保管してください。

5 拡張ボードをライザーボードのコネクターにしっかりと差し込む。

重 要

- 拡張ボードを接続するときは、メインボードやほかのボードに接触しないようにしてください。



6 コネクタープレート止め金具を閉じ、ネジ止めする。

7 パソコンカバー②を取り付ける。

8 縦置きの場合、スタンド①を取り付ける。

ヒント

- パソコンを立ち上げても、拡張ボードが認識されないときは、ライザーボードのスロットにしっかり接続されているかご確認ください。
- 拡張ボードが正しく増設されたかご確認ください。確認方法については、拡張ボードに付属のマニュアルをご参照ください。

重 要

- 通信用のボードなどを接続した場合は、節電機能が働かないように設定してください。

参照 設定について→ 2 章の「節電機能を使わないようにするとき」

4 その他の周辺機器を接続する

通常、プラグアンドプレイ機能に対応している周辺機器を接続したときは、自動的に Windows が環境を設定します。プラグアンドプレイ機能に対応していない周辺機器を接続する場合は、[ハードウェアの追加ウィザード] を使って手動で環境を設定します。[ハードウェアの追加ウィザード] を使う前に、周辺機器に付属しているマニュアルをよくお読みください。そのマニュアルに操作手順が記載されている場合は、手順に従ってください。

ヒント

- メモリーの増設などでは、環境を設定する必要はありません。
- 周辺機器の取り付け･取り外しについては、この章や周辺機器に付属のマニュアルをご参照ください。

1 パソコンの電源を切る。

2 電源プラグをコンセントから抜き、周辺機器を接続する。

3 必要に応じて、周辺機器の電源を入れる。

4 パソコンの電源を入れる。

ヒント

- USB 機器や i.LINK 機器などのように、パソコンの電源が入ったままでも接続できる周辺機器もあります。

5 ［コントロールパネル］の［ハードウェアの追加］アイコンをダブルクリックする。

[ハードウェアの追加ウィザード] が表示される。

6 [次へ] ボタンをクリックする。

新しい周辺機器の検出が始まる。
しばらくすると、「ハードウェアの検出が完了し、インストールの準備ができました」と表示される。

ヒント

- メッセージが表示されず、増設した周辺機器が見つからないときは、[次へ] ボタンをクリックし、周辺機器に付属のマニュアルを参照するなどして手動で設定してください。

7 [完了] ボタンをクリックする。

検出された周辺機器のドライバーがインストールされる。

4章

セットアップする

この章では、

ご購入時にセットアップされていないアプリケーションなどの

セットアップ方法について説明します。

4 アプリケーションのセットアップ

ここでは、アプリケーションのセットアップについて説明します。ご購入時にセットアップされていないアプリケーションをセットアップする場合や、すでにあるアプリケーションをセットアップし直す場合にお読みください。

ヒント

- **ここで説明する以外の方法で特殊なセットアップを行う場合は、各アプリケーションの販売元や開発元にお問い合わせください。**

参照 **問い合わせ先→『困った時の Q&A』3 章の「お問い合わせ情報」**

セットアップの前に

立ち上げ直しはセットアップがすべて終了してから

アプリケーションによっては、セットアップの終了後に Windows を立ち上げ直すかどうかを選ぶメッセージが表示されることがあります。このときは「再起動しない」や「あとで再起動します」などを選んでください。選んだアプリケーションのセットアップがすべて終了すると、立ち上げ直すかどうかのメッセージが表示されますので、そこで再起動を指定してください。

ほかのアプリケーションは終了させておく

セットアップを始める前に、ほかのアプリケーションはすべて終了してください。

既存のアプリケーショングループは削除しておく

すでに存在するアプリケーションを再セットアップする場合は、アプリケーションごと削除してから実行してください。削除せずに再セットアップを行うとアイコンが二重登録されることがあります。削除方法はアプリケーションによって異なり、次に説明する 2 つの方法のどちらかになります。どちらかわからない場合は、「アンインストーラーによる削除」から順に試してみてください。

ヒント

- **アンインストール中に、「共有ファイルを削除しますか？」と表示されることがあります。通常は [いいえ] ボタンを選びます。ほかのソフトウェアで使用されていないと分っている場合は [はい] ボタンを選んでください。**

参照 **削除の方法→本章の「アプリケーションを削除する」**

重要

- **筆ぐるめをアンインストールする時、アンインストール中に［共有ファイルの検出］画面が表示されます。ここで、［次回からこのメッセージを表示しない。］チェックボックスをチェックして、［はい］ボタンをクリックしてください。[いいえ] または [キャンセル] ボタンをクリックすると、アンインストールが正常に終了しません。**

フォントの再セットアップはフォントファイルを削除してから

フォントファイルを再セットアップする場合は、フォントファイルを削除してから行ってください。

■ フォントファイルの削除

1 [コントロールパネル] − [フォント] アイコンをダブルクリックし、[フォント] フォルダーを開く。

ヒント

・［コントロールパネル］に［フォント］アイコンが表示されていないときは、［クラシック表示に切り替える］をクリックすると表示されます。

2 削除したいフォントを選び、右クリックして［削除］をクリックする。

■ フォントファイルのセットアップ

アプリケーションによっては、フォントファイルはセットアップされない場合があります。このときは、アプリケーションをセットアップしたあとに、次の方法でフォントをセットアップしてください。

1 [コントロールパネル] の [フォント] アイコンをダブルクリックし、[フォント] フォルダーを開く。

2 [ファイル] メニュー − [新しいフォントのインストール] をクリックする。

[フォントの追加] が表示される。

3 [ドライブ] を CD-R/RW ドライブに変更して、フォントの入っている CD-ROM などを CD-R/RW ドライブに入れる。

4 [フォルダ] をフォントの入ってるフォルダーに変更する。

[フォントの一覧] に、選んだフォントが表示される。

5 [すべて選択] ボタンをクリックする。

6 [フォントフォルダにフォントをコピーする] にチェックマークが付いていることを確認し、[OK] ボタンをクリックする。

アプリケーションを削除する

ヒント

- 調べ TEL はアンインストールしないでください。個別セットアップできません。再インストールする場合は、一括インストールを行ってください。

参照 一括セットアップについて→『接続と準備』の「6. 再セットアップについて」

アンインストーラーによる削除

1 ［スタート］ボタン－［すべてのプログラム］をクリックし、削除するアプリケーションを選ぶ。

2 アンインストーラーをクリックする。

ヒント

- ［×××のアンインストール］などとあるのがアンインストーラーです。アプリケーションによって名称は異なります。
- アンインストーラーがない場合は、次項の「［プログラムの追加と削除］による削除」を行ってください。

3 画面の指示に従って操作し、アプリケーションを削除する。

［プログラムの追加と削除］による削除

1 ［コントロールパネル］の［プログラムの追加と削除］をダブルクリックし、［プログラムの追加と削除］を開く。

削除できるアプリケーションの一覧が表示される。

2 削除するアプリケーションを選んで、［変更と削除］ボタンをクリックする。

3 画面の指示に従い、アプリケーションを削除する。

アプリケーションのセットアップ

アプリケーションは、各ソフトウェアに付属の CD や『アプリケーション CD』を使ってセットアップします。

重要

- **アプリケーションをセットアップするときは、管理者権限を持つユーザー（アカウント）でセットアップしてください。**

HDD イメージからのセットアップ

一括セットアップで、元に戻らないアプリケーションをセットアップします。

重要

- **フォルダーやファイルを消去すると、セットアップができなくなります。**

1 **[スタート] ボタン－ [マイ コンピュータ] をクリックする。**

[マイ コンピュータ] が表示される。

2 **[ローカルディスク (c:)] － [Documents and Settings] の順にダブルクリックする。**

[Documents and Settings] が表示される。

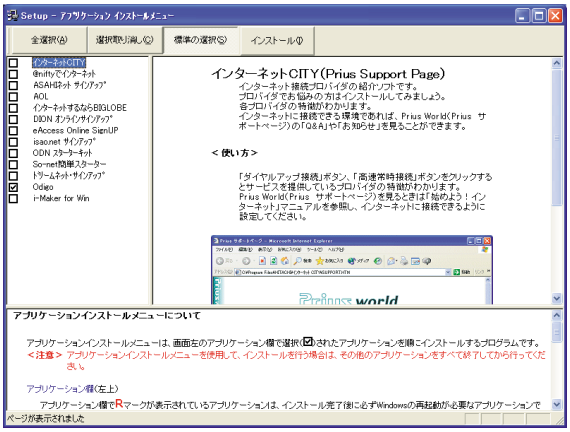
3 **[All Users] － [AP_Setup] の順にダブルクリックする。**

[AP_Setup] が表示される。

4 **[INSTMENU] をダブルクリックする。**

[アプリケーション インストールメニュー] が表示される。

5 **必要なアプリケーションにチェックマークを付け、それ以外のアプリケーションのチェックマークを消す。**



重要

- **[スタート] メニューに登録されているプログラムフォルダー名は変更しないでください。インストールするアプリケーションを正常に判断できなくなります。**

6 [インストール] ボタンをクリックする。

セットアップが始まり、アプリケーションごとにインストール開始確認画面が表示される。[キャンセル] ボタンをクリックすると、セットアップは中止される。

7 [OK] ボタンをクリックする。

ほとんどのアプリケーションは、これでセットアップが始まり、プログラムのインストール先フォルダーを指定する画面が表示される。

8 本章の「各アプリケーションの制限や設定」を参照してインストールを行う。

参照 詳細について→本章の「各アプリケーションの制限や設定」

重要

- **アプリケーションのインストール中に、ほかのアプリケーションのインストール開始の確認画面が表示される場合があります。現在インストールしているアプリケーションが終了してから、インストール開始の確認画面で [OK]、[はい]、[完了] のいずれかのボタンをクリックしてください。**

9 必要に応じてインストール先フォルダーを変更し、[継続] ボタン（[実行] ボタン、[確認] ボタン、[OK] ボタンの場合もある) をクリックする。

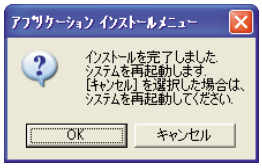
セットアップが終了すると、「セットアップが終了しました。」などの終了メッセージが表示される。

10 [OK]、[はい]、[完了] のいずれかのボタンをクリックする。

次にセットアップするアプリケーションがある場合は、次のアプリケーションのセットアップが始まり、インストール開始確認画面が表示される。

11 チェックしたアプリケーションの数だけ、手順 7 ～ 10 を繰り返す。

終了すると、次の画面が表示される。



12 [OK] ボタンをクリックする。

Windows が立ち上げ直される。

重要

- **アプリケーションによっては、セットアップ中に画面表示が数 10 秒間変化しない場合があります。しばらくお待ちください。**

ソフトウェア付属の CD からのセットアップ

セットアップ方法については、各ソフトウェアに付属のマニュアル、『接続と準備』の「BIOS の設定をご購入時の状態に戻す」「3 アプリケーションをセットアップする」「添付ソフトウェアの CD-ROM からセットアップ」をご参照ください。

ヒント

- **「一括セットアップ」ではセットアップされません。**
- **表の「購入時」に○印のあるアプリケーションは、購入時にセットアップされています。**

重要

- **770C には、「世界大百科事典 第 2 版」は添付されません。**

アプリケーション一覧	購入時 ○：有り ×：無し
Microsoft Office XP Personal	○
MegaVi DV2	○
世界大百科事典 第 2 版	○

『アプリケーション CD』からのセットアップ

セットアップで特別な制限や設定が必要なアプリケーションは、次の表の「設定」に○印があります。内容は後述の「各アプリケーションの制限や設定」をご参照ください。

ヒント

- **表の「一括セットアップ」に○印があるアプリケーションは、一括セットアップの「一括インストール」でもセットアップできます。**
  参照 一括セットアップについて→『接続と準備』の「6. 再セットアップについて」
- **表の「購入時」に○印のあるアプリケーションは、購入時にセットアップされています。**

アプリケーション一覧	設定 ○：必要 －：不要	一括セットアップ ○：可能 ×：不可	購入時 ○：有り ×：無し	収録ディスク 1:Disc1 2:Disc2
デジカメ Ninja2002	○	×	○	1
BeatJam XX-TREME	○	×	○	1
Beat Stream	－	×	○	1
ATRAC3	－	×	○	1
AI 囲碁、AI 将棋、AI 麻雀	○	×	○	1
VirusScan	○	×	×	1
ホームページ Ninja	○	×	○	1
自動ログオン設定プログラム	－	×	×	1
Konica オンラインラボ工房	○	×	○	1
筆ぐるめ	○	×	○	1
らくらく家計簿ゆとりちゃん ＊2	○	×	○	2
DV@Talk	○	×	×	1

アプリケーション一覧		設定	一括セットアップ	購入時	収録ディスク
		○：必要 －：不要	○：可能 ×：不可	○：有り ×：無し	1:Disc1 2:Disc2
Drag'n Drop CD		○	×	○	2
タイピングドリーム アフロ犬 ＊3		○	×	○	2
時事通信社「家庭の医学」デジタル第Ⅱ版 ＊3		－	×	○	2
WinDVD ＊3		－	×	○	2
ラベル王		○	×	○	1
DVD-MovieAlbumSE ＊2		－	×	○	2
わくわくナビ		－	×	○	2
Prius ツール	Prius サウンド REC	○	×	○	2
	PriusAV ランチャー	○	×	○	2
neoDVD standard ＊2		○	×	○	2
DVD-RAM Software ＊3		－	×	○	2
Prius Navistation ＊2		－	×	○	2
メール着信ツール(570C用) ＊3		－	×	○	2
メール着信ツール(770C用)＊1、＊2		－	×	○	2
reserMail ＊1、＊2		－	×	○	2

＊1：印のアプリケーションは、Prius Navistaion の中に入っています。インストールしたい場合は、インストールメニューから、Prius Navistaion を選んでください。
＊2：770C のみ
＊3：570C のみ

1 **『アプリケーション CD』の Disc1 または Disc2 を CD-R/RW ドライブに入れる。**

2 **[スタート] ボタン－ [ファイル名を指定して実行] をクリックする。**

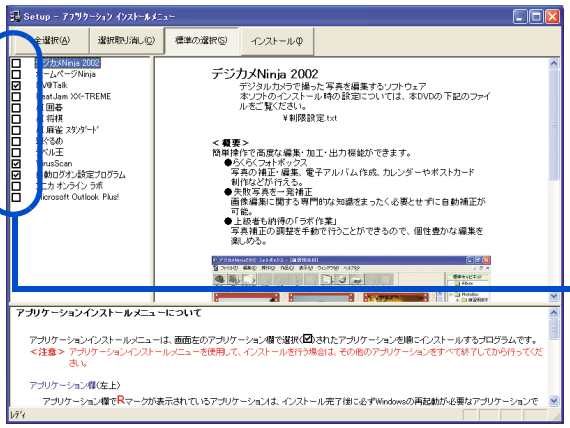
[ファイル名を指定して実行] が表示される。

3 **d:\instmenu と入力し、[OK] ボタンをクリックする。**

※ d は CD-R/RW ドライブ名

[アプリケーション インストールメニュー] が表示される。

4 必要なアプリケーションにチェックマークを付け、それ以外のアプリケーションのチェックマークを消す。



セットアップされていないアプリケーションにチェックが付いている

重要

- **[スタート] メニューに登録されているプログラムのフォルダー名は変更しないでください。インストールするアプリケーションを正常に判断できなくなります。**

ヒント

- **画面は、『アプリケーション CD』の Disc1 を入れたときに表示されるものです。これ以外のアプリケーションは、『アプリケーション CD』の Disc2 を入れたときに、同じように表示されます。**
- **[アプリケーション インストールメニュー] の立ち上げ時に、[スタート] メニューに登録されているプログラム名でどのアプリケーションがセットアップ済みか判断します。セットアップされていないアプリケーションにチェックマークが付いています。[全選択] ボタンをクリックすると、すべてのアプリケーションにチェックマークが付き、[選択取り消し] ボタンをクリックします。アプリケーションのチェックマークがすべて消えます。[標準の選択] ボタンをクリックすると、[アプリケーション インストールメニュー] 立ち上げ時の状態に戻ります。**

5 [インストール] ボタンをクリックする。

セットアップが始まり、アプリケーションごとにインストール開始確認画面が表示される。[キャンセル] ボタンをクリックすると、セットアップは中止される。

6 [OK] ボタンをクリックする。

ほとんどのアプリケーションは、これでセットアップが始まり、プログラムのインストール先フォルダーを指定する画面が表示される。

重要

- **アプリケーションのインストール中に、ほかのアプリケーションのインストール開始の確認画面が表示される場合があります。現在インストールしているアプリケーションが終了してから、インストール開始の確認画面で [OK]、[はい]、[完了] のいずれかのボタンをクリックしてください。**
- **オプションの選択など指定項目が多くなっているアプリケーションもありますが、画面の指示に従ってください。特別な操作が必要な指定項目については、「各アプリケーションの制限や設定」で説明しています。**

参照 **特別な操作が必要な指定項目について→本章の「各アプリケーションの制限や設定」**

7 必要に応じてインストール先フォルダーを変更し、[継続] ボタン ([実行] ボタン、[確認] ボタン、[OK] ボタンの場合もある) をクリックする。

セットアップが終了すると、「セットアップが終了しました。」などの終了メッセージが表示される。

8 **[OK] ボタンをクリックする。**

複数のアプリケーションをセットアップする場合は、次のアプリケーションのセットアップが始まり、インストール開始確認画面が表示される。

9 **セットアップするアプリケーションの数だけ、手順 6 ～ 8 を繰り返す。**

セットアップがすべて終了すると、[アプリケーション インストールメニュー] の終了メッセージが表示される。

重要

- **アプリケーションによっては、セットアップ中に表示されるメッセージがウインドウの裏に隠れてしまうことがあります。セットアップが停止しているように見えたときは、[Alt] ＋ [Tab] キーでウィンドウを切り替えてください。**

10 **[OK] ボタンをクリックする。**

Windows が立ち上げ直され、アプリケーションが使用できるようになる。

重要

- **アプリケーションによっては、セットアップ中に画面表示が数 10 秒間変化しない場合があります。しばらくお待ちください。**

各アプリケーションの制限や設定

アプリケーションによっては、「通常のセットアップ」で説明した手順と異なる手順が必要だったり、特別な制限がある場合があります。そのようなアプリケーションをセットアップするときは、開始前に該当するアプリケーションの項目をお読みください。

ヒント

- **各アプリケーションの情報については、アプリケーション提供元のホームページをご参照ください。**
- **市販のアプリケーションをご利用の場合、Windows XP で動作するか、各メーカーにお問い合わせください。**

重要

- **アプリケーションは、コンピュータの管理者権限を持つユーザーで使用してください。制限ユーザーでは使用できないアプリケーションがあります。**

インターネット CITY

- 使用するときは、『始めよう！ インターネット』を参照し、インターネットに接続できるように設定してください。

参照 **インターネットの接続について→『始めよう！インターネット』１章の「インターネットに接続する」**

ASAHI ネットサインアップ

- 紹介 HTML(インターネット エクスプローラ) が表示されたら、インターネット エクスプローラを閉じてください。

@ nifty でインターネット

- ［Readme ファイルを表示する］のチェックボックスをクリックして空欄にし、［完了］をクリックします。チェックマークを付けたまま［完了］をクリックした場合は、メモ帳を終了してください。

DV @ TALK
・「このプログラムを終了する前に、コンピュータを再起動する必要があります。」と表示されたら、「いいえ、あとでコンピュータを再起動します。」を選択して、［完了］ボタンをクリックします。

AOL
・ AOL に接続しない場合は、「 AOL へ接続します」と表示されたら、[キャンセル] ボタンをクリックしてください。「キャンセルしますか？」と表示されたら、[はい] ボタンをクリックしてください。

インターネットするなら BIGLOBE
・ 続けてサインアップをしない場合は、「 Install Shield ウィザードの完了」で、[続けて本製品を利用する] のチェックボックスをクリックして空欄にし、[完了] ボタンをクリックしてください。

So-net 簡単スターター
・［So-net 簡単スターター Ver.1.2 セットアップ］が表示されたら、［So-net 簡単スターター Ver.1.2 を起動する］のチェックボックスをクリックして空欄にし、［完了］ボタンをクリックしてください。

デジカメ Ninja2002
・ Readme.txt(メモ帳) が表示されたら、メモ帳を終了してください。
・［デジカメ Ninja2002］フォルダーが表示されたら、フォルダーを閉じてください。
・ インストール中に、インストール進行バーが止まる場合は、マウスを動かしてください。

Konica オンラインラボ工房
・ インストールするときは、［インストール］ボタンをクリックしてください。

筆ぐるめ
・［ユーザ情報入力］が表示されたら、名前と会社名を入力してください。会社名は入力しなくてもインストールできます。
・［ウィザードの終了］が表示されたら、［いいえ、あとでコンピュータを再起動します］を選んで［完了］ボタンをクリックしてください。

VirusScan
・［インストールの種類］画面では、［標準インストール］を選んで［次へ］ボタンをクリックしてください。
・［McAfee VirusScan インストールウィザードを完了します。］画面では、［設定］ボタンをクリックしてください。
・［McAfee VirusScan 設定］画面では、［エマージェンシーディスクを作成］と［インストール後にデフォルトのウイルス検査を実行］のチェックを外して［次へ］ボタンをクリックしてください。エマージェンシーディスクの作成と標準のウイルス検査はインストール後も行えます。
・［ウイルス定義ファイルのアップデート］画面では、［後でアップデート］をチェックして［次へ］ボタンをクリックしてください。ウイルス定義ファイルのアップデート（修正）はインストール後も行えます。
・［McAfee VirusScan インストール ウィザードは正常に完了しました。］画面では、［完了］ボタンをクリックしてください。
・［McAfee VirusScan インストール情報］画面では、［いいえ］ボタンをクリックしてください。VirusScan 常駐プログラムは、パソコンを立ち上げ直すと開始されます。
・ VirusScan の Windows XP 用差分アップデータが、次の URL からダウンロードできます。URL：http://www.nai.com/japan/oem/oem.asp
・ ユーザー切り替えはサポートしていません。

・ コンピュータの管理者以外のユーザー権限では、アラート機能とオンデマンドスキャン (ログ) が使用できません。

BeatJam XX-TREME(BeatStream)

・［ファイルの関連付け］画面では、使い方に合わせて必要なものを選んでください。
・［セットアップの完了］画面では、［いいえ、後でコンピュータを再起動します］を選択して、［完了］ボタンをクリックしてください。

AI 囲碁

・［お読みくださいの表示］画面では、［表示する］のチェックボックスをクリックして空欄にし、［次へ］ボタンをクリックします。チェックマークを付けたまま［次へ］ボタンをクリックした場合は、立ち上がったメモ帳を終了してください。

AI 将棋

・［お読みくださいの表示］画面では、［読まずに終了する］ボタンをクリックしてください。［「お読みください」を開く］ボタンをクリックした場合は、立ち上がったメモ帳を終了してください。

AI 麻雀

・［ユーザ情報］が表示されたら、名前と会社名を入力してください。会社名は入力しなくてもインストールできます。
・［セットアップの完了］画面で、［「お使いになる前に」を表示します］のチェックボックスをクリックして空欄にし、［完了］ボタンをクリックします。チェックマークを付けたまま［完了］ボタンをクリックした場合は、立ち上がったメモ帳を終了してください。

Drag'n Drop CD

・アンインストールするときは、Drag'n Drop CD を終了させてください。画面右下のタスクトレイにある Drag'n Drop CD アイコンを右クリックし、［終了］を選択すると終了できます。

neoDVD standard

・アンインストールするときは、Drag'n Drop CD を終了させてください。画面右下の通知領域にある Drag'n Drop CD アイコンを右クリックし、［終了］を選択すると終了できます。
・新たに neoDVD standard をインストールするときは、Drag'n Drop CD を終了させてからインストールしてください。

ホームページ Ninja

・ホームページ Ninja の画面が表示されたら、[ホームページ Ninja のインストール] をクリックします。
・「インストールを完了するには、Windows を再起動する必要があります。今再起動しますか？」と表示されたら、「いいえ、後でコンピュータを再起動します」を選択して [完了] ボタンをクリックします。

ラベル王

・「インストールを完了するには、Windows を再起動する必要があります。今再起動しますか？」と表示されたら、「いいえ、後でコンピュータを再起動します」を選択して［完了] ボタンをクリックします。

タイピングドリーム アフロ犬

・［セットアップの完了］画面では、［後で、コンピュータを再起動します］を選択して、［完了］ボタンをクリックしてください。

らくらく家計簿ゆとりちゃん 5

・ セットアップが完了すると、［ゆとりちゃん 5］の入っているフォルダーが表示されます。［ ファイル ］－［ 閉じる ］の順にクリックして、フォルダーを閉じてください。

Prius ツール

・ ［セットアップの完了］画面が表示されたら、［すべて］を選択して［次へ］ボタンをクリックしてください。

4 ドライバー、ユーティリティーのセットアップ

ドライバーやユーティリティーは標準でセットアップされています。何らかの理由でドライバーなどが壊れた場合にセットアップし直してください。

ヒント

- **セットアップを行うと、ご購入時の設定と異なることがあります。**
- **標準の CD-R/RW ドライブは、ドライブ D です。**
- **ドライバーやユーティリティーの追加を行うと、Windows の CD-ROM を要求するメッセージが表示されることがあります。このときは、「ファイルのコピー元」に C:\WINDOWS\I386 と入力し、[OK] ボタンをクリックしてください。インストールが実行されます。**

セットアップ方法

次のドライバーやユーティリティーをセットアップする方法を説明します。

- 表示ドライバー
- サウンドドライバー
- マルチメディアキーボードドライバー
- モデムドライバー
- LAN ドライバー
- TV チューナードライバー（770C のみ）
- Acrobat Reader
- CyberSupport for HITACHI

重要

- **ドライバーのセットアップを完了後、『一括インストール CD』を取り出して、Windows を立ち上げ直してください。ドライバーによっては、自動で立ち上げ直される場合もあります。**

表示ドライバー

1 Windows を立ち上げ、このパソコンに付属の『一括インストール CD Disc3』を CD-R/RW ドライブに入れる。

2 [スタート] ボタン－ [ファイル名を指定して実行] をクリックする。

[ファイル名を指定して実行] が表示される。

3 d:\drivers\svga\setup と入力し、[OK] ボタンをクリックする。

※ d は CD-R/RW ドライブ名

[ようこそ] 画面が表示される。

4 [次へ] ボタンをクリックする。

[セットアップ方法] 画面が表示される。

5 「標準」が選択されていることを確認して、[次へ] ボタンをクリックする。

[プログラムフォルダの選択] 画面が表示される。

6 **[次へ] ボタンをクリックする。**

[ファイルコピー開始] 画面が表示される。

7 **[次へ] ボタンをクリックする。**

ファイルのコピーが開始され、終了後、[セットアップの完了] 画面が表示される。

8 **[はい、直ちにコンピュータを再起動します] を選択し、『一括インストール CD』を取り出して [完了] ボタンをクリックする。**

Windows が立ち上げ直される。

ヒント

- **インストールの途中で「バージョンの競合」が表示された場合は、[いいえ] を選んでください。**

サウンドドライバー

サウンドドライバーが壊れたり、誤って削除（アンインストール）した場合、次の手順でサウンドドライバーをセットアップしてください。

1 **Windows を立ち上げ、［スタート］ボタン－［コントロールパネル］をクリックし、［システム］アイコンをダブルクリックする。**

［システムのプロパティ］が表示される。

2 **［ハードウェア］タブの［デバイスマネージャ］ボタンをクリックする。**

［デバイスマネージャ］が表示される。

3 **［その他のデバイス] － [マルチメディアオーディオコントローラ] をダブルクリックする。**

［マルチメディアオーディオコントローラのプロパティ］が表示される。

4 **［ドライバの再インストール］ボタンをクリックする。**

［ハードウェアの更新ウィザードの開始］が表示される。

5 **［一覧または特定の場所からインストールする］を選択して、［次へ］ボタンをクリックする。**

［検索とインストールのオプションを選んでください。］が表示される。

6 **『一括インストール CD Disc3』を CD-R/RW ドライブに入れる。**

7 **［次の場所で最適のドライバを検索する］を選び、［次の場所を含める］のみを選択し、d:\drivers\sound と入力後、［次へ］ボタンをクリックする。**

※ d は、CD-R/RW ドライブ名

［ハードウェアの更新ウィザードの完了］が表示される。

8 **［完了］ボタンをクリックする。**

［YAMAHA AC-XG Audio Device のプロパティ］が表示される。

9 **［閉じる］ボタンをクリックする。**

10 **[コントロールパネル] − [ヤマハ AC-XG] をダブルクリックする。**

[ヤマハ AC-XG] が表示される。

11 **[デジタル出力] タブをクリックし、[デジタル出力] を [オン（すべて)] にチェックを入れる。**

12 **[OK] ボタンをクリックする。**

ヒント

・ **インストール直後の [Volume Control] の標準音量値が最大になっています。音量を調整してください。**

参照 **音量の調整→ 1 章の「音量を調整する」**

マルチメディアキーボードドライバー

キーボードのワンタッチキーを使えるようにするドライバーです。

1 **Windows を立ち上げ、このパソコンに付属の『一括インストール CD Disc3』を CD-R/RW ドライブに入れる。**

2 **[スタート] ボタン − [ファイル名を指定して実行] をクリックする。**

[ファイル名を指定して実行] が表示される。

3 **d:\drivers\usbkb\hkbsetup と入力し、[OK] ボタンをクリックする。**

※ d は CD-R/RW ドライブ名

[Install] が表示される。

4 **[OK] ボタンをクリックする。**

ファイルがコピーされる。

5 **[インストールが正常終了しました。] と表示されたら、『一括インストール CD Disc3』を取り出し、[OK] ボタンをクリックする。**

モデムドライバー

モデムドライバーが壊れたり、誤って削除（アンインストール）した場合、次の手順でモデムドライバーをセットアップしてください。

1 **Windows を立ち上げ、このパソコンに付属の『一括インストール CD Disc3』を CD-R/RW ドライブに入れる。**

2 **[スタート] ボタン− [コントロールパネル] をクリックする。**

[コントロールパネル] が表示される。

3 **[コントロールパネル] の [システム] アイコンをダブルクリックする。**

[システムのプロパティ] が表示される。

4 **［ハードウェア］タブをクリックし、［デバイスマネージャ］ボタンをクリックする。**

［デバイスマネージャ］が表示される。

5 **［その他のデバイス］－［PCI モデム］をダブルクリックする。**

［PCI モデムのプロパティ］が表示される。

6 **[ドライバ] タブの [ドライバの更新] ボタンをクリックする。**

[ハードウェアの更新ウィザードの開始] が表示される。

7 **[一覧または特定の場所からインストールする] を選択し、[次へ] ボタンをクリックする。**

[検索とインストールのオプションを選んでください。] が表示される。

8 **「次の場所で最適のドライバを検索する」を選び、「次の場所を含める」のみを選択して、d:\drivers\modem と入力し、[次へ] ボタンをクリックする。**

※ d は CD-R/RW ドライブ名

[ハードウェアの更新ウィザードの完了] が表示される。

9 **[完了] ボタンをクリックする。**

[Connexant-Ambit V.90(V.92) SoftK56 AMR Modem のプロパティ] が表示される。

10 **[閉じる] ボタンをクリックする。**

LAN ドライバー

LAN ドライバーが壊れたり、誤って削除（アンインストール）した場合、次の手順で LAN ドライバーをセットアップしてください。

1 **Windows を立ち上げ、このパソコンに付属の『一括インストール CD Disc3』を CD-R/RW ドライブに入れる。**

2 **［スタート］ボタン－［コントロールパネル］をクリックする。**

［コントロールパネル］が表示される。

3 **［コントロールパネル］の［システム］アイコンをダブルクリックする。**

［システムのプロパティ］が表示される。

4 **［ハードウェア］タブをクリックし、［デバイスマネージャ］ボタンをクリックする。**

［デバイスマネージャ］が表示される。

5 **［ネットワークアダプタ］－［Realtek RTL8139 Family PCI Fast Ethernet NIC］をダブルクリックする。**

［Realtek RTL8139 Family PCI Fast Ethernet NIC のプロパティ］が表示される。

6 ［ドライバ］タブの［ドライバの更新］ボタンをクリックする。

［ハードウェアの更新ウィザードの開始］が表示される。

7 ［一覧または特定の場所からインストールする］を選択して、［次へ］ボタンをクリックする。

［検索とインストールのオプションを選んでください。］が表示される。

8 「次の場所で最適のドライバを検索する」を選び、「次の場所を含める」のみを選択し、d:\drivers\lan と入力後、［次へ］ボタンをクリックする。

※ d は、CD-R/RW ドライブ名

［ハードウェアの更新ウィザードの完了］が表示される。

9 ［完了］ボタンをクリックする。

［Realtek RTL8139/810X Family PCI Fast Ethernet NIC のプロパティ］が表示される。

10 ［閉じる］ボタンをクリックする。

ヒント

- LAN ドライバーを自動検出しない場合、[コントロールパネル] − [システム] アイコンで [デバイスマネージャ] の [その他のデバイス] − [PCI Ethernet Controller] を削除してください。
- LAN ドライバーを削除すると、ドライバーが使用しているプロトコルも削除されます。TCP/IP プロトコルの場合、IP アドレスなどの設定情報も削除されます。削除する前に、設定内容を書き留めてください。

TV チューナードライバー（770C のみ）

1 Windows を立ち上げ、このパソコンに付属の『一括インストール CD Disc3』を CD-R/RW ドライブに入れる。

2 ［スタート］ボタン−［コントロールパネル］−［システム］アイコンをクリックし、［ハードウェア］タブの［デバイスマネージャ］ボタンをクリックする。

3 ［その他のデバイス］の［マルチメディア　ビデオコントローラ］をダブルクリックする。

[マルチメディア　ビデオコントローラのプロパティ] が表示される。

4 [ドライバーの再インストール] ボタンをクリックする。

5 「一覧または、特定の場所からインストールする」を選択して、[次へ] ボタンをクリックする。

6 「次の場所で最適のドライバを検索する」を選んで、「次の場所を含める」をクリックしてチェックを入れ、d:\drivers\tvtuner と入力して [次へ] ボタンをクリックする。

※ d は、CD-R/RW ドライブ名

7 インストールが終了したら、[完了] ボタンをクリックする。

8 **[閉じる] ボタンをクリックし、[Pixela MPEG Capture Board 2 のプロパティ] を閉じる。**

9 **[デバイスマネージャ] を閉じ、[OK] ボタンをクリックして [システムのプロパティ] を閉じる。**

10 **『一括インストール CD Disc3』を CD-R/RW ドライブから取り出し、パソコンを立ち上げ直す。**

Acrobat Reader

1 **Windows を立ち上げ、このパソコンに付属の『活用百科』CD を CD-R/RW ドライブに入れる。**

2 **[スタート] ボタン－ [ファイル名を指定して実行] をクリックする。**
[ファイル名を指定して実行] が表示される。

3 **d:\install\ar505jpn と入力し、[OK] ボタンをクリックする。**
※ d は CD-R/RW ドライブ名
[Adobe Acrobat 5.0.5 のセットアップ] が表示される。

4 **画面の指示に従ってインストールする。**
終了すると [情報] が表示される。

5 **[OK] ボタンをクリックする。**

CyberSupport for HITACHI

重要

・ **電子マニュアルをインストールしていないと、データベースが正しく作成されません。**

1 **Windows を立ち上げ、このパソコンに付属の『活用百科』CD を CD-R/RW ドライブに入れる。**

2 **[スタート] ボタン－ [ファイル名を指定して実行] をクリックする。**
[ファイル名を指定して実行] が表示される。

3 **d:\install\cybersupport\setup と入力し、[OK] ボタンをクリックする。**
※ d は CD-R/RW ドライブ名
[CyberSupport for HITACHI] が表示される。

4 **[はい] ボタンをクリックし、画面の指示に従ってインストールする。**
「CyberSupport を実行するにはマシンの再起動が必要です。」とメッセージが表示される。

5 **[完了] ボタンをクリックする。**
パソコンが立ち上げ直される。

Windows ファイルを追加セットアップする

Windows 固有のソフトウェアは次の手順でセットアップできます。必要に応じてセットアップしてください。

1. [スタート] ボタン－ [コントロールパネル] をクリックする。
2. [コントロールパネル] の [プログラムの追加と削除] アイコンをダブルクリックし、[プログラムの追加と削除] を開く。
3. [Windows コンポーネントの追加と削除] アイコンをクリックし、[Windows コンポーネントウィザード] を開く。
4. [コンポーネント] で、必要なソフトウェアにチェックマークを付ける。
5. 1 つの項目に複数のソフトウェアが含まれている。全部をセットアップしない場合は [詳細] ボタンをクリックし、必要のないソフトウェアのチェックマークを消して [OK] ボタンをクリックする。
6. [次へ] ボタンをクリックする。追加するファイルによっては、立ち上げ直すメッセージが表示される。その場合は、立ち上げ直すとセットアップが終了する。

パーティションの設定

HDD を複数の領域に分け、それぞれ別のドライブとして使用する場合にはパーティション（使用可能領域）を設定し直します。

重要

- **ある程度パソコンについての知識を必要とする説明があります。初心者の方や HDD の知識をあまりお持ちでない方は、お勧めできません。特に問題がない場合は、ご購入時のままの領域でお使いください。**
- **パーティションを設定し直すには、HDD 内のデータはすべて削除されます。あらかじめ CD-R やその他の媒体に必要なファイルのバックアップを取ってください。インターネットやメールなどの設定も控えておいてください。**

1 電源を入れたら、すぐに『一括インストール CD Disc1』を CD-R/RW ドライブに入れる。

メニューが立ち上がる。

```
＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
＊＊                                                          ＊＊
＊＊   一括インストールを行います                              ＊＊
＊＊                                                          ＊＊
＊＊   この作業を行うと、一部のアプリケーションを除いて        ＊＊
＊＊   パソコンのハードディスクをご購入時の状態に戻します。    ＊＊
＊＊   さらに、ドライブ C のサイズを変更したり、              ＊＊
＊＊   ドライブ C のみご購入時の状態に戻すこともできます。    ＊＊
＊＊                                                          ＊＊
＊＊   続行するとハードディスクの内容が一部消去されます。      ＊＊
＊＊   必要なデータなどがある場合は一括インストールを中断して  ＊＊
＊＊   先にバックアップを取ってください。                      ＊＊
＊＊                                                          ＊＊
＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
：(1)  一括インストールを行う                                  ：
+-----------------------------------------------------------------+
：(2)  一括インストールを中断する                              ：
+-----------------------------------------------------------------+
                          選択   (1/2)?:
```

重要

- **DVD-RAM/R ドライブや DVD-ROM ドライブに『一括インストール CD Disc1』を入れても、メニューは立ち上がりません。『一括インストール CD Disc1』は、CD-R/RW ドライブに入れてください。**

2 [1] キーを押す。

次のメッセージが表示される。

```
＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
＊＊                                                          ＊＊
＊＊   一括インストールを行います。                            ＊＊
＊＊                                                          ＊＊
＊＊   一括インストールの方法を選択してください                ＊＊
＊＊                                                          ＊＊
＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
: (1) ハードディスクを初期化した後、一括インストールする              :
:       －ハードディスクのデータはすべて削除されます                 :
:       －新たにドライブ C の容量を設定できます。                    :
+-----------------------------------------------------------------+
: (2) 現在のドライブ C だけを一括インストールする                     :
:       －現在のドライブ C の内容は消去されます。                    :
:       －ドライブ C 以外のドライブは消去されません。                :
:       －ドライブ C の容量は変更できません。                        :
+-----------------------------------------------------------------+
: (3)  一括インストールを中断する                                    :
+-----------------------------------------------------------------+
                              選択   (1/2/3)?:
```

3 [1] キーを押す。

次のメッセージが表示される。

```
＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
＊＊                                                          ＊＊
＊＊     新規にドライブ C をハードディスクに作成した後         ＊＊
＊＊     一括インストールを行います。                          ＊＊
＊＊                                                          ＊＊
＊＊   ＜警告＞                                               ＊＊
＊＊     続行するとハードディスクの内容はすべて消去されます。  ＊＊
＊＊     必要なデータなどがある場合は一括インストールを中断して ＊＊
＊＊     先にバックアップを取ってください。                    ＊＊
＊＊                                                          ＊＊
＊＊     一括インストールを続行しますか？                      ＊＊
＊＊                                                          ＊＊
＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
: (1) 続行                                                          :
:       －ハードディスクを初期化し、一括インストールを行います。     :
+-----------------------------------------------------------------+
: (2)  一括インストールを中断する                                    :
+-----------------------------------------------------------------+
                              選択   (1/2)?:
```

4 [1] キーを押す。

ドライブ C のサイズ変更画面が表示される。

```
＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
＊＊                                                                ＊＊
＊＊  ハードディスクに新規に作成するドライブ C の                    ＊＊
＊＊  サイズを指定します。                                          ＊＊
＊＊                                                                ＊＊
＊＊  設定可能なドライブ C のサイズの範囲は                          ＊＊
＊＊      最小値：XXXXXXXXXX ＭＢ                                    ＊＊
＊＊      最大値：XXXXXXXXXX ＭＢ                                    ＊＊
＊＊  です。                                                        ＊＊
＊＊                                                                ＊＊
＊＊  ―設定可能なサイズの範囲内でドライブ C のサイズを入力した後、  ＊＊
＊＊    Enter キーを押してください（サイズの単位は ＭＢ）            ＊＊
＊＊  ―サイズを入力しないで Enter キーを押すと                      ＊＊
＊＊      デフォルト値：XXXXXXXXXX ＭＢ                              ＊＊
＊＊    で新規にシステムパーティションを作成します。                ＊＊
＊＊                                                                ＊＊
＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
                ドライブ C のサイズを入力してください：
```

5 任意に領域を決めてドライブを作成するときは、パーティションに割り当てるサイズを入力し［Enter］キーを押す。

確認のメッセージが表示される。

ヒント

- ここで作成したドライブがドライブ C になり、自動で立ち上げドライブとして設定されます。
- 任意に領域を決めて作成するドライブは、立ち上げドライブとして設定されません。
- 立ち上げドライブの領域のサイズが、一括セットアップに必要なサイズより小さい場合は、一括セットアップ時、セットアップできる HDD の最大サイズまで自動で割り当て直します。

6 [Y] キー、[Enter] キーを押す。

パーティションの設定が開始される。

7 画面の指示に従って、CD-R/RW ドライブから取り出したあと、[Ctrl] キーと [Alt] キーを押したまま、[Delete] キーを押す。

パソコンが立ち上げ直され、[Microsoft Windows へようこそ] 画面が表示される。

8 画面の指示に従って、Windows 環境をセットアップする。

参照 詳細について→『接続と準備』の「3. 電源を入れよう」「使用許諾契約に同意しよう」

9 [スタート] ボタン－ [コントロールパネル] をクリックする。

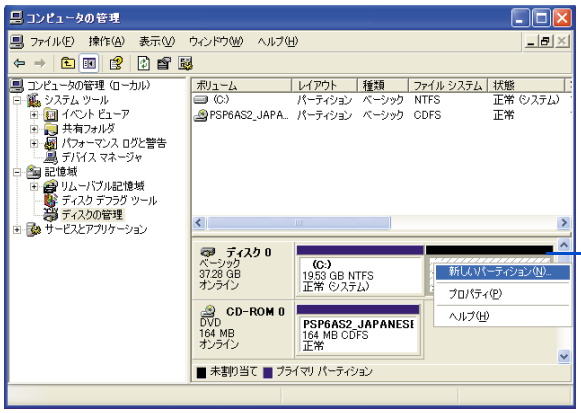
10 [管理ツール] アイコンをダブルクリックする。

11 **[コンピュータの管理] アイコンをダブルクリックする。**

12 **[記憶域] − [ディスクの管理] をクリックし、ディスクの構成を表示する。**

13 **[未割り当て] 領域を右クリックし、[新しいパーティション] をクリックする。**

［新しいパーティションウィザード］画面が表示される。



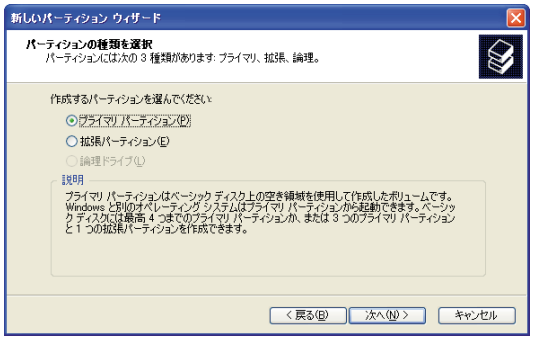
［未割り当て］領域

14 **[次へ] ボタンをクリックする。**

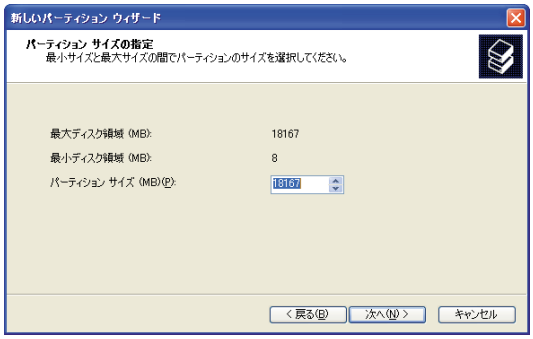
15 **[プライマリパーティション] を選択し、[次へ] ボタンをクリックする。**

ヒント

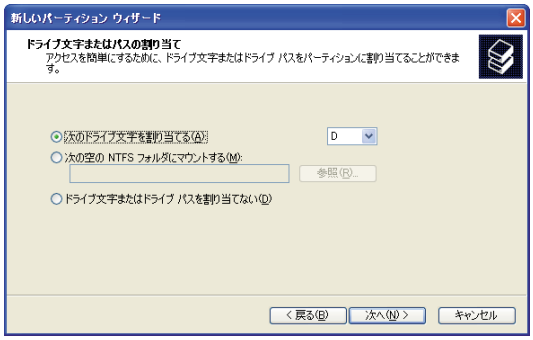
- **5 つ以上のパーティションを作成する場合は、［拡張パーティション］を選択し、画面の指示に従って、パーティションを作成してください。**



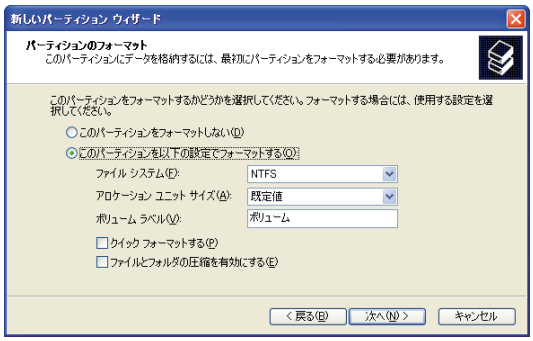
16 パーティションのサイズを入力し、[次へ] ボタンをクリックする。



17 ドライブ名を選択し、[次へ] ボタンをクリックする。



18 フォーマットする方法を選択し、[次へ] ボタンをクリックする。



19 [完了] ボタンをクリックする。

パーティションが作成され、新しいドライブができる。

5章

日常のお手入れ

この章では、

パソコンの各部分および周辺機器のお手入れ

について説明します。

4 パソコンのお手入れ

ここではパソコンのお手入れについて説明します。
パソコンのお手入れをするときは、パソコンの電源を切り、コンセントから電源プラグを抜いてから行ってください。

重要

- **シンナーやベンジン、化学雑巾は使わないでください。パソコンの表面が変質するおそれがあります。**

パソコンのお手入れ

パソコンが汚れたときは、乾いた柔らかい布で軽く拭いてください。汚れがひどいときは、水か中性洗剤で湿らせた布を固く絞って拭くか、オフィスクリーナーなど、市販の専用クリーナーをお使いください。

マウスのお手入れ

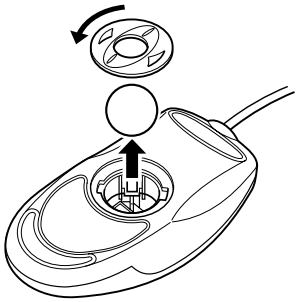
1 ～ 3 カ月に 1 回はマウスをクリーニングすることをお勧めします。また、ボールにゴミが付着するなどして正しく動かないときは、クリーニングをしてください。

ヒント

- ボールは中性洗剤を薄めた水で洗ってください。漂白剤、シンナー、ワックス、クリーム、油剤などは使用しないでください。
  また、化学雑巾やワックスが付いた布でボールを拭かないでください。ワックスなどの皮膜が付着するとボールがスリップする原因になります。

クリーニング手順

1 マウス底面の中央にあるフタを図のように反時計回りに回す。
フタを外して、中のボールを取り出す。



2 ボールを中性洗剤を薄めた水で洗う。

3 乾いた布で水分を拭き取り、十分に乾燥させる。

4 乾いた布でマウスの内部や、内部のローラーのゴミやホコリを取り除く。

5 マウスにボールを入れ、取り外したときと逆の手順でフタを取り付ける。

4 ディスクドライブのお手入れ

CD-R/RW ドライブのクリーニング

データ読み込み時にエラーがひんぱんに発生する場合は、市販のクリーニングディスクを用い、クリーニングしてください。クリーニングの方法は、クリーニングディスクに付属のマニュアルをご参照ください。

重要

- **クリーニング液を使用する湿式レンズクリーナーは、使用しないでください。ドライブ内部のレンズを傷つける原因になります。**

ヒント

- **クリーニングディスクは、パソコンショップでご購入ください。**

DVD-ROM ドライブのクリーニング

データの読み込み時にエラーがひんぱんに発生する場合は、市販のクリーニングディスクを用い、クリーニングしてください。クリーニングの方法は、クリーニングディスクに付属のマニュアルをご参照ください。

DVD-RAM/R ドライブのクリーニング

データの読み書き時にエラーがひんぱんに発生する場合は、指定のクリーニングキットを用い、クリーニングしてください。クリーニング方法は、クリーニングキットに付属のマニュアルをご参照ください。

重要

- **クリーニングキットは、松下製（形名：LF-K123LCJ1）をご使用ください。**
- **指定以外のクリーニングキットは、使用しないでください。レンズを傷つける原因になります。**

6章

トラブルと思ったら

この章では、

パソコンおよび周辺機器の使用環境、使用方法における制限を説明します。

この章を参照して対処してください。

このほかのトラブルについては、『困った時のＱ＆Ａ』をご参照ください。

4 制限事項

パソコンおよび周辺機器を使用する環境について

- 寒い場所では、室温を動作時周囲温度まで上げたあと 20 ～ 30 分経過してからお使いください。

  参照 **動作時周囲温度について→ 7 章の「パソコン仕様一覧」**
- 暑い場所では、しばらく空調などを使用し室温が一定になってからお使いください。
- 直射日光の当たる場所や、ストーブなど発熱する器具の近くでは使用しないでください。
- ほこりが極端に多い場所では、使用しないでください。
- 極端に高温、低温の場所、または温度変化が激しい場所では使用しないでください。また、湿度が極端に高い場所では、使用しないでください。

  参照 **最適な温度と湿度→ 7 章の「パソコン仕様一覧」**
- 腐食性ガスや塩分を多量に含む空気などは、パソコンおよび周辺機器の表面を化学的に腐食させます。そうなると、電子部品の接触抵抗が増加したり、可動部品の構造がもろくなり、パソコンおよび周辺機器の信頼性が著しく低下します。そのため、パソコンや周辺機器は腐食性ガス (特に亜硫酸ガス、硫化水素、塩素ガス、アンモニアガスなど）や塩分を多量に含む空気などが発生しない場所に設置してください。
- パソコンを使用する場所の近くで落雷が発生したり、電源の供給状態が悪い場合、使用中に瞬時停電や電圧低下が発生し、突然ディスプレイの表示が消えることがあります。

  このときは、一度パソコンの電源を切って立ち上げ直してください。

パソコンおよび周辺機器の取り扱いについて

- ハードウェアの故障に伴うデータやアプリケーションの破損については、補償いたしかねます。あらかじめご了承ください。
- Windows の立ち上げ中や使用中に、電源スイッチを 4 秒以上押して電源を切ると次回立ち上げ時にチェックプログラムが動くことがあります。異常がない場合は、そのあと正常に Windows が立ち上がりますが、異常がある場合は、一括セットアップしないとパソコンが使用できない場合もあります。
- パソコンは精密な電子部品で製造されていますので、衝撃を与えないでください。
- 磁石やスピーカーなどの強い磁気を発生するものを近づけると、パソコンおよび周辺機器の故障の原因になります。
- ディスプレイを背中合わせに設置したり並べて配置する場合は、互いに少し離して配置してください。
- マウスは外部からのノイズに弱い機器です。マウスが誤動作する場合は、パソコンおよびその周辺機器の電源を同一のノイズフィルター付き ＯＡ タップからとることをお勧めします。

・ マウスの内部に異物などが入ったときは、取り除いてください。異物が入るとボールがなめらかに動かなくなります。
・ Windows でコマンドプロンプトを使用する場合は英語環境にしないでください。正しく動作しないことがあります。
・ パソコンを一度終了したら、再度起動するのは必ず 20 秒以上経過してからにしてください。20 秒以上経過しないと、パソコンが立ち上がらないことがあります。
・ 煙霧状の殺虫剤などを使用するときは、事前にビニールシートなどでパソコンを完全に包んでください。
・ じゅうたんのある部屋でパソコンを使用したり、パソコンの使用中にひざ掛けなどを使用すると、それらの材質によっては静電気が発生し、パソコンおよび周辺機器に悪影響を及ぼす場合があります。静電気の発生しにくい材質のものをお使いください。

通信に関する制限

・ 通信中や、HDD、CD-R/RW ドライブ、DVD-RAM/R ドライブ、DVD-ROM ドライブの読み込み、書き込み中には、パソコンの電源を切ったりソフトウェアリセットを行わないでください。
・ パソコン内蔵のモデムでは、Windows 標準の「ダイヤラ」は使用できません。
・ モデム着信による、休止状態および電源を切った状態からの復帰はできません。

キーボードに関する制限

・ コマンドプロンプトで、キーボードの [Stop]、[Play&Pause]、[Rew]、[FF] キーを押すと、コマンドラインに関係のない文字が入力される場合があります。

リモコンに関する制限（770C のみ）

・ 太陽光などの強い外来光が入るところを避けて使用してください。
・ パソコンのリモコンは、次の範囲内でご使用ください。
距離：発光部をパソコンのリモコン受信窓に向けて、5m 以内
角度：左右± 15 °、3m 以内

HDD の容量表示について

HDD は、高密度な磁気ディスクにデータを保存する精密機器です。磁気ディスクには微小な欠点があり、これらの領域にはデータを書き込まないようになっています。
HDD のエラーチェックプログラムを実行すると、「不良セクタ」もしくは「スキップセクタ」が表示されることがあります。これは、データを書き込まない領域を表示しているだけで、HDD の不良ではありません。
取り付けられている内蔵 HDD の容量と、エラーチェックプログラム実行時に表示される「全ディスク容量」との関係は次の通りです。内蔵 HDD が複数のパーティションに分割されている場合は、各領域の合計値です。この場合、合計値が次の値以下になる場合があります。なお、＊は BIOS メニューの IDE の項目をご参照ください。

内蔵 HDD 容量	全ディスク容量の表示
＊ GB	＊× 1000000000 バイト以上

7章

技術情報

この章では、

パソコンのシステム構成および仕様について

説明します。

4 パソコン仕様一覧

パソコンの仕様を紹介します。

製品名		Prius Deck 770C	Prius Deck 570C
形名		770C5SVP	570C5SWP
インストール OS 形式		Microsoft® Windows® XP Home Edition	
CPU（重要 1）		Intel® Pentium® 4 プロセッサ 1.7GHz	
キャッシュメモリー	1 次	12K デコード命令 +8KB	
	2 次 （キャッシュ有効範囲）	256KB（CPU 内蔵） （メモリー 0GB-1GB）	
RAM	標準メモリー （ヒント 1）	512MB（DDR SDRAM）	256MB（DDR SDRAM）
	最大メモリー	1024MB	
	ビデオメモリー	16MB（SDRAM）	
ROM		BIOS 256KB（Flash ROM）	
表示能力	半角	8 × 19 ドット、80 桁× 25 行	
	全角	16 × 19 ドット、40 桁× 25 行	
グラフィック（ヒント 2）	800 × 600 ドット時	65536 色 /16 万色	
	1024 × 768 ドット時	65536 色 /16 万色	
ディスプレイ		15 型デジタル液晶ディスプレイ	
HDD（ヒント 3）		80GB	
CD-R/RW ドライブ		読み取り：最大 40 倍速（CD-R）、最大 32 倍速（CD-RW） 書き込み：最大 32 倍速（CD-R）、最大 10 倍速（CD-RW）	
DVD-ROM ドライブ		-	読み取り： 最大 16 倍速（DVD-ROM）、 最大 40 倍速（CD-ROM）、 最大 40 倍速（CD-RW）
DVD-RAM/R ドライブ		読み取り： DVD-RAM 2.6GB / 面 1 倍速 DVD-RAM 4.7GB / 面 2 倍速、 DVD-ROM 最大 6 倍速、 DVD-R 4.7GB / 面 1 倍速 CD-ROM 最大 24 倍速、 CD-R 最大 24 倍速、 CD-RW 最大 12 倍速 書き込み： DVD-RAM 2.6GB / 面 1 倍速、 DVD-RAM 4.7GB / 面 2 倍速 DVD-R 4.7GB / 面 1 倍速	-
カレンダー時計（重要 2）		年月日、時分秒を刻時、刻時誤差± 150 秒 / 月	
FAX データモデム（ヒント 4、5）		DATA 56Kbps、FAX 14.4Kbps	
インタフェース	ライン入力	1（ステレオミニジャック）	
	ライン出力	1（ステレオミニジャック）	
	スピーカー	1（ステレオミニジャック）	
	マイク	1（モノラルミニジャック）	

製品名		Prius Deck 770C	Prius Deck 570C
形名		770C5SVP	570C5SWP
インタフェース	ヘッドホン / 光デジタル音声出力	1（ステレオミニジャック）	
	i.LINK (S400、IEEE1394)	1（4 ピン）、1（6 ピン）	
	USB	5	
	LAN	1	
	アナログディスプレイ	1	
	デジタル液晶ディスプレイ	1	
	テレビ音声入力	1(ステレオピンジャック)	ー
	テレビ入力	S 入力端子× 1、コンポジット端子× 1	ー
	テレビアンテナ入力	1	ー
拡張スロット	スロット 1	PCI 規格（ボードサイズ：幅 107㎜、奥行 177㎜ 以下）	
	スロット 2（重要 3）	PCI 規格（ボードサイズ：幅 107㎜、奥行 177㎜ 以下）	
	スロット 3	モデム専用（モデムボード専用で使用済み）	
PC カードスロット		TYPEII × 2 個または TYPEIII × 1 個 PC Card Standard 準拠、Card Bus 対応	
電源	周波数	50/60Hz	
	入力電圧	AC100V	
消費電力	パソコン（ヒント 6）	約 49W（最大 :144W、サスペンド時 : 約 2.7W）	約 49W（最大 :144W、サスペンド時 : 約 2.6W）
	ディスプレイ	最大 35W 以下（スタンバイ時 : 3 W 以下）	
省エネ法に基づく表示（ヒント 7）	区分	R	
	エネルギー消費効率	0.0006	0.0006
外形寸法	パソコン	105（W）X 339（D）X 367（H）mm	
	ディスプレイ	377（W）X 454（D）X 190（H）mm	
質量	パソコン	約 9.3kg	約 8.9kg
	ディスプレイ	約 5.1kg	
周囲温度	動作時（重要 4）	10 ～ 35 ℃	
	非動作時	ー 10 ～ 43 ℃	
	保存および輸送時	ー 10 ～ 60 ℃	
周囲湿度	動作時（重要 4）	20 ～ 80%Rh（結露しないこと）	
	非動作時	20 ～ 80%Rh（結露しないこと）	
	保存および輸送時	20 ～ 80%Rh（結露しないこと）	
	最大湿球温度	25 ℃	

ヒント 1：［コントロールパネル］ー［システム］アイコンー「システムのプロパティ」でメモリー容量を参照すると、実際の容量より小さく見える場合があります。

参照 **メモリーボードの詳細について→ 3 章の「メモリーボードとメモリーボードソケットの組み合わせかた」**

ヒント 2：Windows XP での表記は、65536 色は中（16 ビット）、1677 万色は高 (16 ビット) ・最高（32 ビット）です。ただし、ディスプレイによっては最高（32 ビット）に設定しても 1677 万色以下になります。

ヒント 3：電源を切ると、HDD のヘッドは自動で待機領域に移動します。
HDD の容量は、1GB=10^9 バイトで計算した場合の数値を表しています。

ヒント 4：最高速度は 56Kbps ですが、実回線では回線状態により 56Kbps では接続できないことがあります。PBX 内線を経由して接続する場合は、直接外線に接続する場合と比べて通信速度が下がります。

ヒント 5：電気通信事業法による端末機器技術基準適合認定を受けた端末機器です。
認定形式：T60M100
認定番号：A01-1097JP

ヒント 6：最大消費電力は、拡張スロットに 1 スロットあたり 5W の拡張ボードを取り付けた状態です。

ヒント 7：エネルギー消費効率とは、省エネ法で定める測定方法により測定された消費電力を省エネ法で定める複合理論性能で除したものです。

重要 1:［コントロールパネル］－［システムのプロパティ］、システム情報、アプリケーションなどによっては、正しく表示されないことがあります。CPU 情報は BIOS メニューの [Standard CMOS Features] でご確認ください。

重要 2:時計にはメインボードのリチウム電池を使っています。取り外さないでください。寿命で交換する場合は、お問い合わせ先にご連絡ください。刻時誤差は、メインボードのリアルタイムクロックの数値です。Windows の時間とずれることがあります。

重要 3:770C では、TV チューナーボードを取り付け済みです。

重要 4:長時間の非動作時から動作させる場合は、周囲の温度や湿度になじむまで時間を置いてから起動してください。

ヒント

- **K（大文字）と k（小文字）の記載の単位は、K（大文字）：1024、k（小文字）：1000 で換算しています。**

ドライブの仕様

CD-R/RW ドライブの仕様

項目	仕様
読み取り速度	CD-ROM　：最大 40 倍速 CD-R　：最大 40 倍速 CD-RW　：最大 32 倍速
書き込み速度	CD-R　：最大 32 倍速 CD-RW　：最大 10 倍速
読み取り方式	半導体レーザー 3 ビーム方式による非接触読み取り方式
ディスクローディング方式	トレー式 / 電動イジェクト
周波数特性	20 ～ 20kHz(± 3.0dB)
出力チャンネル	2ch
動作表示ランプ	緑 LED または、オレンジ LED
寿命	約 5 年
バッファメモリー	8MB
転送レート	最大 6MBps
オーディオ仕様　オーディオ出力	0.6Vrms または、0.7Vrms (Typical ： 47kΩ 負荷)
推奨ディスク	CD-R ：太陽誘電 (株) 製、TDK(株) 製、 三井化学 (株) 製、三菱化学 (株) 製、 (株) リコー製、日立マクセル (株) 製 CD-RW：三菱化学 (株) 製、(株) リコー製

■ 対応しているディスク

次のディスクを使用できます。

- CD-R
- CD-RW
- CD-DA(オーディオ CD)
- CD-ROM(mode1、mode2)
- CD-ROM XA(mode2 の form1、form2)
- PhotoCD(シングル / マルチセッション)
- CD-EXTRA(CD-Plus)
- VIDEO CD

重要

- **使用するディスクによって、専用ソフトが必要です。**
- **CD-R/RW は、使用する条件によって正しく読み込めないことがあります。**
- **推奨ディスク以外のディスクを使用すると書き込みエラーが発生することがあります。**
- **8cm CD-ROM を使用する場合は、パソコンを横置きでご使用ください。市販のアダプターを使うと、縦置きでもご使用になれます。**
- **CD-RW に 8 倍速以上で書き込みをする場合は、「High Speed Disc」マークのついた CD-RW ディスクをご使用ください。High Speed CD-RW ディスクを使用するときは、必ずハイスピードに対応した CD-RW ディスクをご使用ください。**
- **書き込みは、12cm CD-R/RW のみ対応しています。**

DVD-ROM ドライブの仕様

項目	仕様
読み取り速度	DVD-ROM ：最大 16 倍速 CD-ROM ：最大 40 倍速 CD-RW ：最大 40 倍速
読み取り方式	半導体レーザー 3 ビーム方式による非接触読み取り方式
ディスクローディング方式	トレー式 / 電動イジェクト
周波数特性	20 ～ 20kHz（± 3dB）
出力チャンネル	2ch
動作表示ランプ	緑 LED
バッファメモリー	256KB
転送レート	DVD-RAM：平均 2.77MBps DVD-ROM：最大 22.1MBps DVD-RW ：最大 3.46MBps CD-ROM ：最大 6.0MBps
オーディオ仕様　オーディオ出力	0.7Vrms（Typical：47kΩ 負荷）

■ 対応しているディスク

次のディスクを使用できます。

- DVD-ROM、DVD-R（3.95GB&4.7GB ディスク Write at once のみ）
- DVD-RW（4.7GB/ 面 Type2、2.6GB/ 面 Type2）
- CD-ROM モード 1 データディスク
- CD-ROM モード 2 データディスク
  CD-ROM XA、CD-I、Photo-CD マルチセッション、ビデオ CD
- CD（オーディオディスク）
  CD-TEXT
- 音声付 CD-ROM ディスク
- CD EXTRA ディスク
- CD-R/RW
- DVD-RAM

重要

- **使用するディスクによって、専用ソフトが必要です。**
- **DVD-R/RW と CD-R/RW は、使用する条件によって正しく読み込めないことがあります。**
- **DVD-RAM ディスクは、カートリッジから取り出して使用します。取り出し可能な DVD-RAM ディスク（Type2）のみ使用できます。**
- **DVD ビデオカメラ、DVD ビデオレコーダーなどで記録した DVD-RAM ディスクを再生するためには、VR フォーマットに対応したソフトウェア（市販）が必要です。**
- **8cm CD-ROM を使用する場合は、パソコンを横置きでご使用ください。CD-ROM の場合は、市販のアダプターを使うと、縦置きでもご使用になれます。**

DVD-RAM/R ドライブの仕様

項目	仕様
読み取り速度	CD-ROM：最大 24 倍速 CD-R　：最大 24 倍速 CD-RW　：最大 12 倍速 DVD-ROM：最大 6 倍速 DVD-RAM 2.6GB/ 面：１倍速 DVD-RAM 4.7GB/ 面：２倍速 DVD-R(4.7GB):1 倍速
書き込み速度	DVD-RAM 2.6GB/ 面：１倍速 DVD-RAM 4.7GB/ 面：２倍速 DVD-R(4.7GB)：1 倍速
ディスクローディング方式	トレー式 / 電動イジェクト
周波数特性	20Hz ～ 20kHz(± 3dB)
出力チャンネル	2ch
動作表示ランプ	緑 LED
バッファメモリー	1MB
転送レート	CD　　：最大 3.6MBps DVD-ROM：最大 8.31MBps DVD-RAM：最大 2.77MBps
オーディオ仕様　オーディオ出力	0.8Vrms (Typical ： 47kΩ 負荷)
推奨ディスク	DVD-R　：4.7GB DVD-R for Video 日立マクセル (株)、松下電器産業（株）製 (DVD-R Ver.2.0 for General 規格準拠) DVD-RAM：DVD-RAM for Video 日立マクセル（株）製 DVD-RAM for Data　日立マクセル（株）製

■ 対応しているディスク

次のディスクを使用できます。

・ CD-DA(オーディオ CD)、CD-ROM(mode1、mode2)、CD-ROM XA(mode2 の form1、form2)、PhotoCD(シングル / マルチセッション)、VIDEO CD、CD-R/RW、CD-I、DVD-RAM、DVD-ROM、DVD-R(3.95GB/4.7GB)（書き込みは 4.7GB for General のみ)、DVD-VIDEO

重要

- **使用するディスクによって、専用ソフトが必要です。**
- **ディスクをドライブに入れてすぐのときに、“ Not Ready ” など、準備ができていないことを示すエラーメッセージが表示される場合があります。このときはディスクアクセスランプが消灯するまでお待ちください。**
- **8cm CD-ROM、8cm DVD-ROM を使用する場合は、パソコンを横置きでご使用ください。**
- **2.6GB/ 面の DVD-RAM への書き込みはカートリッジに入れた状態でのみ可能です。**

ドライブの使用について

CD-R/RW ドライブと DVD-ROM ドライブ、DVD-RAM/R ドライブ（以下、まとめてドライブ）の使用について説明します。

ドライブの取り扱い

- ドライブ使用中に振動を与えないでください。データを正しく読めないことがあります。
- パソコンの電源を切るときは、必ずディスクを取り出してからにしてください。ディスクを内蔵ドライブに入れたまま誤ってパソコンの電源を切ったときは、再び電源を入れて取り出してください。
- 通常は、ディスク強制イジェクトスイッチは使わないでください。ただし、内蔵ドライブが壊れ、ディスクイジェクトボタンを押してもトレーが出ないときは、ディスク強制イジェクトスイッチに細いピンなどを差し込んで取り出してください。
- ディスク強制イジェクトスイッチを使うときは、内蔵ドライブの内部に異物が入らないようにしてください。
- ディスクが偏重心している場合、ドライブの振動が通常より大きくなることや、読み取りスピードが遅くなることがあります。
- パソコンの電源を切ったり、ソフトウェアリセット（［Ctrl］キーと［Alt］キーを押したまま［Delete］キーを押す）を行うときは、ディスクアクセスランプが消えてから行ってください。
- ディスクアクセスランプの点灯、点滅中に電源を切ったり、ソフトウェアリセットを行うと、ドライブが壊れることがあります。
- ディスクアクセスランプが点灯しているときは、イジェクトボタンを押さないでください。また、電源を切らないでください。ドライブやディスクが壊れることがあります。
- ドライブは、10 ～ 35 ℃の温度環境で使用できますが、長くお使いいただくためには 30 ℃以下の場所でお使いください。
- ドライブの使用中に強い衝撃を与えないでください。
- ディスクを入れたり取り出したりするとき以外に、ドライブのトレーを開けないでください。
- トレーの中に異物を入れないでください。ドライブが破損し、故障の原因になります。
- トレーを無理に引き出さないでください。ドライブが壊れることがあります。
- CD-R/RW を書き込み中にディスクの傷や汚れを検出した場合、書き込みを中断することがあります。
- オプションのフロッピーディスクドライブなど、データの転送速度が遅いディスクドライブから CD-R や CD-RW に書き込みを行うときは、テスト書き込みを行ってください。
- CD-R や CD-RW にデータを書き込む時は、ほかのアプリケーションを終了してください。書き込み中も、ほかのアプリケーションを立ち上げないでください。書き込みに失敗することがあります。

ディスクの取り扱い

- 割れたり変形したディスクを使用しないでください。故障の原因になります。
- ディスクをお手入れするときは、乾いた柔らかい布でディスクの中心から外周に向けて放射状に拭いてください。このとき、ベンジン、シンナー、水、レコードクリーナー、静電気防止剤、シリコンクロスなどで拭かないでください。
- ディスクからゴミや水分を取り除くのにドライヤーは使わないでください。
- ディスクは温度、湿度が高い場所、直射日光の当たる場所に保管しないでください。
- ディスクは温度差のはげしい場所には保管しないでください。
- ディスクを折ったり曲げたりしないでください。
- ディスクに字を書いたり傷を付けないでください。
- ディスクにラベルなどをはると、ドライブ内での回転が不安定になり故障の原因になります。
- カートリッジタイプのディスクを、カートリッジから取り外して使用するときは、記録面にさわらないなど、注意が必要です。
  正しく取り扱わないと、すでに記録されているデータが損なわれたり、ドライブの故障の原因となります。
- お子さまがディスクを傷つけたりしないよう、ディスクはお子さまの手の届かないところに保管してください。
- CD-RW の書き換え可能回数は 1000 回程度です。1000 回以上使用した場合は、書き込みエラーが発生することがあります。
- DVD-RAM の書き換え可能回数は 10 万回程度です。10 万回以上使用した場合は、書き込みエラーが発生することがあります。

メモリーボードの仕様

ヒント

・ **メモリーボードの使用環境はパソコンと同じです。**

項目	仕様
容量	256MB
	パリティーなし
外形寸法	約 133 mm (W)X32 mm (D)
質量	約 15g
DRAM タイプ	DDR SDRAM
DIMM タイプ	168 ピン
バッファーの有無	バッファーなし
バスクロック	133MHz（PC2100、CL=2.5）
電圧値	3.3V

有寿命部品一覧

パソコンの部品は、長期間使用しているうちに劣化、磨耗します。次の部品は、一定周期で交換の必要があります。部品は有償です。購入や交換については、お買い求め先にご連絡ください。
なお、交換した部品は、パソコン購入時の部品と、仕様が異なる場合があります。

品 名	備 考
キーボード	＊1
CPU 放熱ファン	
ハードディスクユニット	
TV チューナーボード	＊1、3
マウス	＊1、2
メインボード	＊1、3
電源ユニット	
液晶ディスプレイ	＊1、3
CD-R/RW ユニット	＊2、4
DVD-ROM ユニット	＊2、4
DVD-RAM/R ユニット	＊2、5
リチウム電池	＊6

＊1：事務室で 1 日に約 4.8 時間、1 カ月で 25 日間、通常に使用すると想定した場合、寿命は約 5 年です。したがって、使用時間が上記より長い場合は、その分寿命は短くなります。
＊2：定期的にクリーニングし、清潔に保った場合。
＊3：使用しているアルミ電解コンデンサーは寿命のある部品です。
＊4：事務室で 1 日に約 2 時間、1ヶ月で 25 日間、データを読み込むと想定した場合、寿命は約 5 年です。したがって、使用時間が上記より長い場合は、その分寿命は短くなります。
＊5：事務室で 1 日約 2GB の記録を 1ヵ月で 25 日間、データを読み書きすると想定した場合、寿命は約 5 年です。したがって、記録容量が上記より多い場合は、その分寿命は短くなります。
＊6：事務室で 1 日に約 4.8 時間、1 カ月で 25 日間、通常に使用すると想定した場合、寿命は約 5 年です。したがって、使用時間が上記より長い場合は、その分寿命は長くなります。定期的に通電されることをお勧めします。

4 オプション情報

パソコンに増設または接続できるオプションを次に示します。

分類	品名	形名	仕様
ファイル装置	フロッピーディスク装置	UF2231	USB インタフェース、3.5 型、3 モード＊
オーディオ装置	MEDIALIVE	EU7100	USB インタフェース 対応周波数 :76.8 ～ 78.0MHz オーディオ周波数帯域 :20Hz ～ 15kHz

＊: Windows XP では 2 モードでの利用となります。

重要

- **この一覧以外のオプションは動作保証していません。**

付録

4 用語集

ここでは、Prius シリーズで使われている用語を説明します。機種によっては対応していない用語もあります。

数字

2DD

両面倍密度倍トラックと呼ばれるフロッピーディスクのフォーマット形式で、720KB にフォーマットできる。

2HD

両面高密度と呼ばれるフロッピーディスクのフォーマット形式で、1.44MB にフォーマットできる。

3 モード FD ドライバー

1.25MB(1.23MB) のフロッピーディスクの読み書きを行うためのドライバー。
1.25MB(1.23MB) のフォーマットはできない。

5.1 チャンネルドルビーデジタル

映画の多くで採用されている音声の再生方式の 1 つ。DVD ビデオなどにも採用されている。

英字

A

ACPI

Advanced Configuration and Power Interface の略。節電機能など電源管理を行うための最新の仕様。Windows 98、Windows 2000、Windows Me、Windows XP でサポートされている。

ADSL

従来の電話回線を使い、音声電話に使用しない高い周波数を利用することで、高速なデーター転送を可能にしたデジタル技術（xDSL）の 1 つ。インターネットへの接続には専用の ADSL モデムを使用する。

APM

Advanced Power Management の略。節電機能など電源管理を行うための仕様。

Athlon

アスロン。パソコンに使われている CPU の種類の 1 つ。

B

BIOS

キーボード、マウス、プリンター、ディスク装置などの入出力装置のインタフェースで、基本的な処理を行うプログラム。本書では、BIOS メニューを指す。セットアップメニューという場合もある。

BIOS 設定の初期化

BIOS メニューの設定値を、工場出荷時の状態に戻すこと。

C

Card Bus

PC カードのインタフェースの規格。データ転送が 32 ビット化されている。

CPU

中央処理装置。パソコンの基本である演算と制御を行う。

D

DMA

Direct Memory Access の略。CPU を介さずに、主記憶装置（メモリー）と周辺機器（ハードディスクなど）とのデータの受け渡しを行う方法。

Duron

デュロン。パソコンに使われている CPU の種類の 1 つ。Athlon との違いは 2 次キャッシュメモリーの容量。

F

FDISK

ハードディスクのパーティションなどを設定する MS-DOS プロンプトのコマンド。

G

GB

ギガバイト。容量などを示す単位。1GB は約 1000MB。

I

IC

Integrated Circuit の略。トランジスター、ダイオード、コンデンサーなどを詰め込んだ集積回路のこと。

IDE

ハードディスクドライブや、CD-ROM ドライブなどを接続するためのインタフェース。

I/O マップ

入出力装置のそれぞれに割り当てられているアドレスの一覧表。

IP アドレス

インターネットなどで使用するアドレス。

IRQ

キーボード、マウス、SCSI ポートなどのハードウェアからパソコンの CPU に対して処理を要求する割り込み信号。

L

LAN

ローカルエリアネットワーク (Local Area Network) の略。同じビル内や構内など、比較的狭い範囲で使用されるネットワーク。

LAN ユーティリティー

内蔵 LAN の通信速度やモードを設定するユーティリティー（機種による）。

Low Battery

バッテリーパックの容量が少なくなった状態。Low Battery になったら、バッテリーパックを交換すること（ノート型パソコンのみ）。

M

MB

メガバイト。容量などを示す単位。1MB は約 1000kB。

MS-DOS

Microsoft Disk Operating System の略。ディスクやファイルなどを管理する基本となるプログラム。

MS-DOS モード

MS-DOS(Microsoft Disk Operating System) 互換モード。MS-DOS で動作するゲームなどが実行できる。

MS-DOS 領域

MS-DOS システムを格納する領域。

O

OS

Operating System の略で パソコンを動作させる基本的なソフトウェア。パソコンにはじめからインストールされている。基本ソフトともいう。Windows も OS の１つ。

P

PCI

パソコンへの入出力のバス規格の１つ。

PDF

Portable Document Format の略で、プリンタードライバーに依存しないファイル形式。

このマニュアルのデータもPDFファイルである。

Pentium

ペンティアム。パソコンに使われているCPUの種類の1つ。

PIOモード

Program Input/Outputの略。IDEインタフェースのデータ転送方式の一種。

S

Save to Disk/Save to File

ノートパソコンの節電機能の一種。一定時間キー入力やマウス操作をしない、ディスプレイを閉じるなどによって現在の状態をHDDに保存し、パソコンの電源を切る。

SCSI

スカジー。パソコンと周辺機器を接続するためのインタフェース規格。

SSEドライバー

Intel Streaming SIMD(Single Instruction Multiple Data)Extensions Driverの略。Intel Pentium III processorや、一部のIntel Celeron processorのパソコンでWindowsを使用できるようにするドライバー。

SuperDisk

データを保存するもの。120MBまで保存できる。

T

TFT

Thin Film Transistorの略で、液晶ディスプレイの表示方式の一つ。画面にトランジスターを埋め込み、それを使って1点1点を直接光らせ表示する方式。

U

UHD

SuperDiskのフォーマット形式で、120MBにフォーマットできる。

USB(ユニバーサルシリアルバス)インタフェース

キーボード、マウス、スピーカー、モデム、プリンターなど比較的低速な周辺機器とパソコンとの接続を、同じコネクターで統一したインタフェース。

W

Windows

パソコンをビジュアルに操作できるようにした基本ソフト。

Windows 2000

Microsoft® Windows® 2000 Professional Operating SystemまたはMicrosoft® Windows® 2000 Server Operating Systemの略。

Windows 95

Microsoft® Windows® 95 Operating Systemの略。

Windows 98

Microsoft® Windows® 98 Operating Systemの略。

Windows Me

Microsoft® Windows® Millennium Editionの略。

Windows NT

Microsoft® Windows NT® Workstation Operating SystemまたはMicrosoft® Windows NT® Server Network Operating Systemの略。

Windows XP

Microsoft® Windows® XP Home EditionまたはMicrosoft® Windows® XP Professionalの略。

五十音

■あ

アイコン
ファイルの内容やソフトウェアの機能のメニューを絵文字で現したもの。

アクティブデスクトップ (Active Desktop)
インターネット エクスプローラ 4.0 からの機能のひとつ。デスクトップの壁紙にホームページを使用したり、チャンネルバーを表示できる。

アドレス
データやソフトウェアを格納する記憶装置の中の特定の位置を示す数字。

アプリケーション
パソコンでワープロ、表計算、パソコン通信などを実行するプログラムの総称。

インジケーター
パソコンに電源が入っているか、節電中であるか、キーボードの設定などのパソコンの状態を示すランプ。

インストール
アプリケーションや Windows をハードディスクに組み込むこと。

インターネット アプライアンス (Internet Applience)
インターネットに接続するための機器またはその環境。

インターネット エクスプローラ (Internet Explorer)
インターネットに簡単に接続するアプリケーション。ブラウザーともいう。

液晶ディスプレイ
液晶を使ったディスプレイ装置。

オプション機器
標準では装備されていない機能や周辺機器。

■か

解像度
画面表示の粗さを示す。

拡張ボード
拡張スロットに取り付けて機能を拡張するボード。

カラーパレット
画面表示で使用する色数。

起動ドライブ
パソコンの電源を入れたとき基本ソフトを読み込むドライブ。

基本ソフト
パソコンを動作させる基本的なソフトウェア。パソコンにはじめからインストールされている。

クライアントパソコン
クライアントサービスシステムで、サービスを提供するサーバパソコンに対し、サービスを要求するパソコン。

クリック
マウスの左ボタンなどを１回押してすぐに指を離すこと。メニューやアイテムなどを選択するときに行う。

コントロールパネル
パソコンの環境を設定するプログラムをまとめたもの。

コンピューターウイルス
ネットワークやフロッピーディスクを介して感染する有害なプログラム。

■さ

再セットアップ
パソコンを工場出荷時の状態に戻すこと。

サウンドドライバー
スピーカーやマイク、サウンド機能を使えるようにするドライバー。

サスペンド
BIOS の節電機能の一種で、一定時間キー入力やマウス操作をしないと、CPU が一時停止し、ディスプレイとハードディスクが節電状態になる。

システムスタンバイ

OS の節電機能の一種で、Windows 98、Windows 2000、Windows Me、Windows XP の機能。一定時間キー入力やマウス操作をしないと、CPU が一時停止し、ディスプレイとハードディスクが節電状態になる。

システム装置

個人用コンピュータのこと。このマニュアルでは、パソコンと表記。

周辺機器

パソコンの内外に接続する装置や入出力装置の総称。

使用許諾契約書

ここでは、パソコンにあらかじめインストールされている各アプリケーションと Windows を使用するための契約書を示す。

ショートカット

実際のデータやアプリケーションの代理として働くアイコン。

ショートカットメニュー

右クリックで表示されるメニュー。よく行う操作が簡単に選べる。

自動挿入 / 自動再生

音楽 CD や CD-ROM を入れると、自動的に再生したり、CD-ROM の機能が働いたりすること。

スクリーンセーバー

画面の焼き付きを防止するもの。一定時間キー入力やマウス操作を行わないと、自動的に設定した画面表示に替わる。

スタートボタン

Windows のいろいろな操作を始めるときに使うボタン。

スタンバイ

BIOS の節電機能の一種で、一定時間キー入力やマウス操作をしないと、CPU は動作したまま、ディスプレイとハードディスクが節電状態になる。

赤外線インタフェース

赤外線インタフェースの送受信部。赤外線インタフェースを持つ機器と通信できる。

節電機能 (パワーマネージメント)

一定時間キー入力や HDD へのアクセスなどがないとき、消費電力を低下させる機能。

セットアップメニュー

パソコンの節電機能や周辺機器構成などを設定する機能を集めたメニュー。

挿入の自動通知

音楽 CD や CD-ROM を入れると、自動的に再生したり、CD-ROM の機能が働いたりすること。

ソフトウェアリセット (リセット)

緊急時に電源を切らずにパソコンを立ち上げ直すこと。

■た

ダブルクリック

クリックボタン、またはマウスのボタンを 2 回続けてクリックすること。

チャンネルバー

アクティブデスクトップの機能のひとつ。デスクトップに表示されるホームページのメニュー。

デスクトップ

パソコンの作業をするための机のようなもの。データやアプリケーションなどのショートカットをおいて作業しやすくできる。

ドライバー

ディスプレイやプリンターなどのハードウェアとアプリケーションプログラムからやりとりするためのインタフェースプログラム。

ドラッグ

クリックボタン、マウスのボタンを押しながらマウスカーソルを移動すること。

■な

内蔵タイマー

パソコンに内蔵されている時計。

■は

パーティション
ハードディスクの領域。複数に分けて使うことができる。

バス
パソコン内部の信号（データ）の通信路。信号の種類や、接続する機器により、数種類のバス規格がある。PCI バス、VME バスなどもそれらの１つ。

パソコン
パーソナル (個人用) コンピューターの略。

バックアップ
ハードディスクやフロッピーディスクのアプリケーションやデータを、保存用のフロッピーディスクや MO などの記録媒体にコピーすること。

ハードウェアウィザード
周辺機器などパソコンの環境を自動的に設定するもの。

ハードウェアの追加
周辺機器などパソコンの環境を自動的に設定するもの。

表示ドライバー
画面の表示を設定するドライバー。

表示モード
画面の解像度や色数などの表示状態。

ファイル装置
ハードディスクドライブ、フロッピーディスクドライブ、CD-ROM ドライブなどの総称。

フォーマット
フロッピーディスクやハードディスクを使えるようにすること。

フォルダー
データやプログラムを整理してまとめておく入れ物。

フォントサイズ
文字のサイズ。

プラグアンドプレイ
周辺機器を増設するだけで、自動的に使えるようにする機能。

プラグアンドプレイ機能
パソコンに周辺機器を接続するだけで、パソコンが周辺機器を自動的に認識する機能。パソコンや周辺機器に特別な設定がいらない。

プリンターの設定
使用するプリンターの機種を設定し、Windows で使えるようにすること。

フロッピーディスク
データを保存するもの。

ホットキー
[Fn] キーとファンクションキーの組み合わせを指す。ディスプレイの明るさやコントラストの調節などに使用する (ノート型のみ)。

■ま

マウスカーソル
マウスの動きに合わせて画面を移動するマーク。

マルチファンクションカード
複数の機能を持つ PC カード。複数の IRQ を使用することがある。

マルチファンクションボード
複数の機能を持つ PCI ボード。INTA 以外も使用することがある。

メインボード
CPU やその周辺回路、メインメモリーなどを搭載した基板。

メモリーボード
パソコンのメモリー容量を増やすためのボード。

■や

ユーティリティー
メーカーが提供する補助的なソフトウェアのこと。データの変換、ファイルの複写、作表など共通で、頻繁に使われるソフトウェア。

ユニバーサルシリアルバスコネクター
→ USB（ユニバーサルシリアルバス）インタフェース

■ら

リセット
電源を切らずにパソコンを立ち上げ直すこと。

リフレッシュレート
画面表示するときの、垂直同期周波数。

さくいん

■A

Acrobat Reader 75

■C

CD-R/RW ドライブの仕様 95
CyberSupport for HITACHI 75

■D

DVD-RAM/R ドライブの仕様 97
DVD-ROM ドライブの仕様 96

■I

i.LINK 機器 37
[INTERNET] キー 13

■L

LAN ドライバー 73

■M

[MAIL] キー 13

■P

[P1] キー 13
[P2] キー 13
PCI 規格 54
PC カード 40
PC カードスロット 40

■T

TV チューナードライバー 74

■U

Universal Serial Bus 34
USB 34

■V

VirusScan 67
Volume Control 8

■W

Windows ファイルを追加セットアップ 76

■あ

アナログインタフェースディスプレイ 43
アプリケーション CD 63

■お

お手入れ 84
音質 12
音質ボタン 12
音量ボタン 9

■か

拡張スロット 54
拡張ボード 54
画面の解像度、色、フォントサイズ 6
画面のプロパティ 6

■き

キーボードインジケーター 15

■く

クリーニング 85

■こ

コネクタープレート 54

■さ

サウンドドライバー 71

■し

周辺機器 32
仕様 92

■す

スタンバイ 24

■て

ディスプレイの節電 24

■と

同時表示 43
ドライブの仕様 95
ドルビーデジタル 5.1 チャンネル 47
ドルビーヘッドホン 47

■は

パーティション 77
ハードディスクの節電 24
パソコンカバー 49

■ひ

表示ドライバー 70

■ふ

部品 101

■へ

ヘッドホン 45

■ま

マイク 45
マルチメディアキーボードドライバー 72

■め

メール着信ランプ 16
メモリーボード 51
メモリーボードの仕様 100

■も

モデムドライバー 72

■ゆ

有寿命部品 101

他社製品の登録商標および商標についてのお知らせ

このマニュアルにおいて説明されている各ソフトウェアは、ライセンスあるいはロイヤリティー契約のもとに供給されています。ソフトウェアおよびマニュアルは、そのソフトウェアライセンス契約に基づき同意書記載の管理責任者の管理のもとでのみ使用することができます。
それ以外の場合は該当ソフトウェア供給会社の承諾なしに無断で使用することはできません。

・EnergyStar はアメリカ合衆国の登録商標です。
・Microsoft、MS-DOS、Windows は、米国 Microsoft Corp. の登録商標です。
・Intel、Pentium は Intel Corporation の登録商標です。
・ドルビーは、ドルビーラボラトリーズの商標です。
・CyberSupport は株式会社ジャストシステムの商標です。
・その他、各会社名、各製品名は、各社の商標または登録商標です。

パソコン応用

初　版　2002 年　4 月

無断転載を禁止します。

落丁・乱丁の場合はお取り替えいたします。

株式会社　日立製作所

インターネットプラットフォーム事業部

〒 243-0435　神奈川県海老名市下今泉 810 番地

TEL:0120-8855-96

Copyright © Hitachi,Ltd.2002.All rights reserved.

770C74PP0-1

HITACHI

Inspire the Next

Prius

Deck 770C / 570C (P)

Prius Deck 770C / 570C (P)

4 パソコン応用

770C74PP0-1

770C74PP0-1